

医療介護総合確保促進法に基づく

岡山県計画

平成28年2月

岡山県

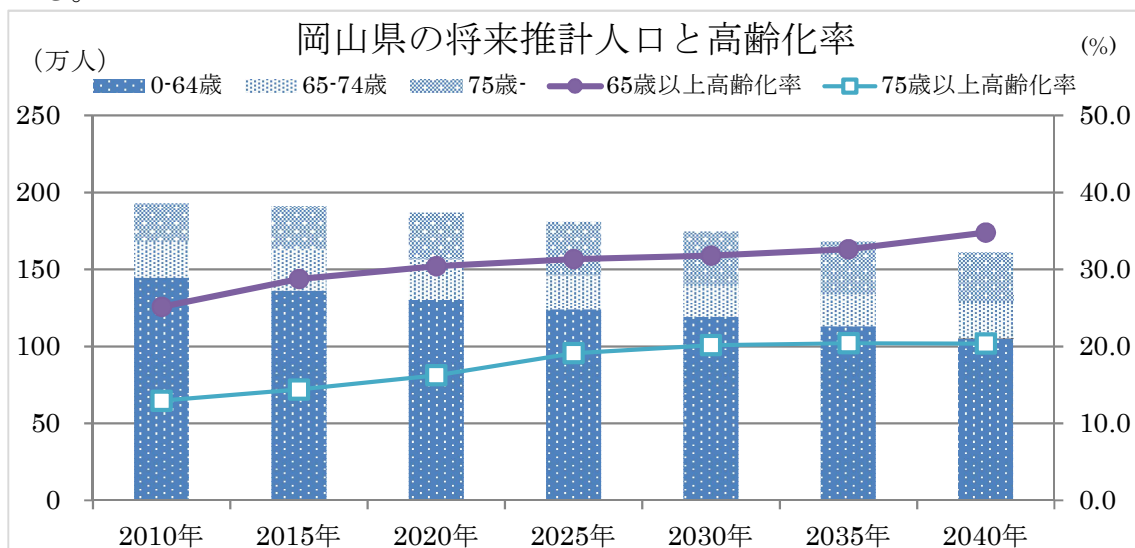
(令和6年3月変更)

1 計画の基本的事項

(1) 計画の基本的な考え方

(人口の現状と将来予測)

- 本県の人口は、平成 26 年 10 月 1 日現在、約 192 万人で、高齢化率は 28.0%となっており、人口は減少し、高齢者数は増加している傾向にある。
- 今後は、「団塊の世代」が後期高齢者となる 2025 年（平成 37 年）に向けて、65 歳以上の高齢者の人口は 489,496 人（平成 22 年国勢調査）（高齢化率 25.1%）から 566,939 人（高齢化率 31.3%）と、8 万人弱の増加（高齢化率 6.2 ポイント増）が見込まれ、特に、75 歳以上の高齢者人口については、252,579 人（後期高齢化率 13.0%）から 345,904 人（後期高齢化率 16.8%）と、9 万人強の増加（後期高齢化率 3.8 ポイント増）が想定されており、医療・介護需要の増加が見込まれている。



国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成 24 年 1 月公表)」引用

〃

「日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月公表)」引用

(地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備の必要性)

- こうした医療・介護需要の増加に、適切に対応していくためには、急性期から回復期、慢性期、在宅医療・介護に至るまで一連の医療サービスが、切れ目なく、効率的かつ効果的に提供できる体制の整備が必要である。
- 平成 25 年 10 月 1 日現在の本県の病院数は 170 施設、人口 10 万対では 8.8 施設であり、全国平均の 6.7 施設を上回っているが、平成 26 年度病床機能報告の結果では、本県は、高度急性期・急性期機能が全体の 60%以上であるのに対し、受け皿となる回復期機能の割合が 11%と、少ない状況であることから、病床の機能分化・連携を進めていく必要がある。
- また、本県の人口当たりの医療機関数、医療従事者ともに、県全体では全国平均を上回っているものの、これらは岡山市、倉敷市に集中しており、特に県北地域

においては、救急医療提供体制の確保や、専門医の確保に課題がある。

- このため、情報通信技術（ICT）の活用や、病病・病診連携の一層の推進により、岡山市や倉敷市における豊富な医療資源等を活用し、医療機関や医療従事者が少ない地域においても、質の高い医療が提供できる仕組みを構築していく必要がある。

■岡山県における一般病床、療養病床別医療機能（（ ）は、人口 10 万人対）

区 分	一般病床	療養病床	合 計	構成比
高度急性期	5,013(262.5)	0	5,013(262.5)	21.9%
急 性 期	9,165(479.8)	102(5.3)	9,267(485.2)	40.4%
回 復 期	1,955(102.4)	580(30.4)	2,535(132.7)	11.0%
慢 性 期	1,782(93.3)	4,340(227.2)	6,122(320.5)	26.7%
合 計	17,915(938.0)	5,022(262.9)	22,937(1,200.9)	100.0%

■全国における一般病床、療養病床別医療機能

区 分	一般病床	療養病床	合 計	構成比
高度急性期	190,849(150.8)	331(0.3)	191,180(151.0)	15.5%
急 性 期	578,723(457.2)	2,456(1.9)	581,179(459.1)	47.1%
回 復 期	59,605(47.1)	50,012(39.5)	109,617(86.6)	8.9%
慢 性 期	86,354(68.2)	265,599(209.8)	351,953(278.0)	28.5%
合 計	915,531(723.3)	318,398(251.5)	1,233,929(974.8)	100.0%

※医療機能の数値

岡山県数値：平成 26 年度病床機能報告の数値を引用

全 国 数 値：第 9 回地域医療構想策定 GL 等に関する検討会 (H27. 3. 18 開催) 資料から抜粋

※人口 10 万人対の数値

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成 24 年 1 月公表)」引用

〃 「日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月公表)」引用

(居宅等における医療提供体制及び介護施設等の整備の必要性)

- 前述したとおり、本県においては、今後、団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年(平成 37 年)に向け、医療・介護需要が増加していくことが想定されている。
- また、本県が平成 25 年 6 月に実施した「終末期医療に関するアンケート」で、58%の人ができれば自宅で療養したいと考えているという結果が出ていることや、中重度の要介護者の増加が今後見込まれることなどを踏まえれば、県民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して生活を継続し、人生の最期を迎えることができるよう、地域の実情に応じた在宅医療・介護サービスの提供体制を整備し、地域包括ケアシステムの構築を進めていくことが急務となっている。

■岡山県の要支援・要介護認定者数

(単位:人)

区 分	第6期計画			平成32年度	平成37年度
	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
要 支 援	34,272	36,222	38,227	43,059	46,541
要支援1	16,623	17,781	18,990	21,189	22,589
要支援2	17,649	18,441	19,237	21,870	23,952
要 介 護	81,911	84,293	86,841	92,968	100,468
要介護1	21,652	22,390	23,179	25,241	27,211
要介護2	20,835	21,801	22,837	25,157	27,461
要介護3	13,944	14,072	14,263	14,943	15,887
要介護4	13,544	13,907	14,268	14,981	16,296
要介護5	11,936	12,123	12,294	12,646	13,613
合 計	116,183	120,515	125,068	136,027	147,009

(医療・介護従事者の確保の必要性)

- 本県の人口 10 万対の医療従事者数は、県全体で医師 290.2 人、看護師 1,032.2 人となっており、県全体では全国平均を上回るが、地域別でみると医師の偏在が見られ、救急医療や地域医療の確保に影響を与えている。
- 適切な医療を継続的に提供していくためには、人材を確保していく必要があり、女性医師や看護師の就労の継続支援、離職者の復職支援に積極的に取り組んでいく必要がある。
- また、本県の介護職員数は、平成 24 年に約 3 万人であったが、平成 37 年に利用が見込まれる介護サービスを提供するには、約 4 万 1 千人必要となることから、介護人材の確保に向け、参入促進や処遇改善等に取り組んでいく必要がある。

(本計画の基本方針)

- 本計画においては、前述したような課題や必要性を踏まえ、「地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備」、「居宅等における医療の提供」、「介護施設等の整備」、「医療従事者の確保」及び「介護従事者の確保」を柱として、以下の必要な取組を進めていくことで、県民一人ひとりが良質な医療・介護を安心して受けることができる体制を構築することを基本的な方針とする。

(課題解決のための主な取組)

1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備

- 県北等では、必ずしも専門医が常勤している状況ではないことから、一人の医師が幅広い分野をカバーしながら、必要に応じて的確に高次医療機関と連携することにより、医療資源が少ない地域においても、質の高い医療が提供できるよう、体制の整備を図る。
- 具体的には、県北等の専門医不在の病院で撮影したCT画像等を、県南の基幹病院の専門医がタブレット端末で迅速に診断するモデル事業を実施する。

- また、限られた医療資源を有効に活用して質の高い医療を提供する具体の取組に向けたモデル事業として、休日・夜間の複数の病院の画像診断業務を当番専門医が担うことにより専門医業務の効率化等を図る事業を実施する。
- 本県では、国内で最大級の医療情報ネットワーク「晴れやかネット」を整備しており、今後、急性期から在宅医療に至るまで一連の医療サービスが切れ目なく提供できるよう、大幅な機能強化と利用の参加促進を図るための事業に取り組み、医療機関相互の機能分化や良質で効率的な医療を提供する地域のチーム医療体制を確保する。
- 更に、本県は、今年度、県保健医療計画・地域医療構想を策定することとしており、回復期機能の充実等迅速かつ円滑に医療機能の分化を進めるために、これに必要な施設整備を本計画に盛り込む。

2. 居宅等における医療の提供

- 在宅医療・介護の連携を進めていくためには、地域の医師会等、医療関係者が在宅医療・介護についての理解を深め、率先して取り組む必要がある。
- そのため、高齢になっても可能な限り住み慣れた地域で療養生活を送ることができる地域包括ケアシステムの構築が進むよう、県医師会が、地域包括ケア支援コーディネーターを設置し、医療介護連携に向けた検討会や研修会の開催、地区医師会や市町村への支援等に取り組むとともに、かかりつけ医の普及に向けた事業に取り組む。
- また、在宅歯科医療、栄養管理等が、在宅療養者の必要に応じて円滑に提供される体制を整備するための事業にも取り組む。

3. 介護施設等の整備

- 地域包括ケアシステムの構築に向けて、第6期岡山県高齢者福祉計画・介護保険事業支援計画等に基づき、地域密着型サービス施設の整備等を行う。

4. 医療従事者の確保

- 救急医の不足している地域において、迅速・的確な判断の下で、必要な場合には、三次救急医療機関等に転院搬送する体制を整備するため、指導医が中山間地域の医師等に対してOJTによる指導・助言を行う事業に取り組む。
- 女性医師や看護師の出産や育児等のライフイベントをきっかけとした離職をできる限り防ぎ、また、一旦離職しても円滑に再就業できるよう、勤務環境の改善や再就業に向けた情報提供、相談・支援体制の整備等に取り組む。
- また、特に不足しているとされる救急医療、産科医療、新生児医療を担う医師を確保するための事業や、新卒の訪問看護師を育成するための事業に取り組む。

5. 介護従事者の確保

- 介護職への入職者を各種事業の実施により増加させるとともに、県内の労働市場の動向も踏まえ、若い世代や地域住民が持つ介護の仕事に対するマイナスイメージを払拭する。特に中学生、高校生に対する介護のイメージアップや、福祉の資格を持つ中高年齢層の離職者の再参入にターゲットを絞った対策を進める。
- また、介護実務の業務に従事する人の更なる資質向上を目指し、介護支援専門員や認知症ケアに携わる人材の養成等を行う。
- 更に、個々の事業所に研修講師が出向いて研修を実施して資質の向上に努め、労務管理上の悩みを抱える事業所に対する相談や介護職員からの悩み相談を実施し、離職率の低下を図る。

(2) 岡山県医療介護総合確保区域の設定

- 総合確保方針によると、医療介護総合確保区域は、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件並びに医療機関の施設及び設備並びに介護施設等の整備の状況その他の条件から見て医療及び介護の総合的な確保の促進を図るべき区域とされている。
- 本県では、医療・介護サービスの一体的な整備を行う観点から、岡山県保健医療計画で定める二次医療圏及び岡山県高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画で定める老人福祉圏域と一致させ、以下の5区域に医療介護総合確保区域を設定する。

- ・ 県南東部医療介護総合確保区域
岡山市等 7 市町
- ・ 県南西部医療介護総合確保区域
倉敷市等 8 市町
- ・ 高梁・新見医療介護総合確保区域
高梁市、新見市
- ・ 真庭医療介護総合確保区域
真庭市、新庄村
- ・ 津山・英田医療介護総合確保区域
津山市等 8 市町村



(3) 計画の目標の設定等

■岡山県全体

①岡山県の医療と介護の総合的な確保に関する目標

- 本県の保健医療計画においては、在宅医療体制の充実・強化、医療従事者確保の取組などを通じて、医療が保健・福祉と連携をとりながら、質の高い医療サービスを地域において切れ目なく提供するための保健医療体制の確立を目標としており、本計画と目指すべき方向性は同じであることから、目標達成に向けた指標は、主に保健医療計画で掲げたものを抽出して設定することとする。
- また、平成 27 年度から平成 29 年度までを計画期間とする第 6 期岡山県高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画に基づき実施する介護施設等の整備や介護人材の確保の取組と整合性を保つ目標を設定することとする。

ア 医療機関の役割分担と連携

- ・医療情報ネットワーク参加医療機関数 435→440
- ・複数の病院間で画像情報を共有するシステムを構築し、専門医業務を効率化する。
- ・医療機能の分化・連携を進めるため、地域の協議を踏まえ、県内で不足している回復期病床への転換を図る。

イ 在宅医療・介護の確保

- ・内科診療所のうち在宅療養支援診療所の数の割合 26.4%→30%
- ・病院(精神科病院を除く)のうち在宅療養支援病院の数の割合 7.5%→20%
- ・訪問看護事業所数(人口 10 万人当たり) 8.5 か所→10.0 か所
- ・医療・介護の連携に向けて、地域包括ケア支援コーディネーターを設置し、地区医師会・市町村への支援を行い、地域包括ケアシステムを構築する。

※各項目の目標値は平成 27 年度末の数値

ウ 介護施設等の整備

- ・小規模多機能型居宅介護 平成 27 年度整備数 4 か所
- ・認知症対応型通所介護 平成 27 年度整備数 1 か所

エ 医療従事者の確保と資質の向上

- ・県北医療圏における医師数(精神科単科病院を除く) 339 人→400 人
- ・卒業後に県内の地域医療を担う医学部学生の数 26 人→66 人
- ・県内どこでも救急医療が適切に提供される体制を構築するため、大学へ寄附講座を設置し、救急総合診療の地域への普及、救急総合診療医を育成する。
- ・院内保育への運営費の補助を行い、女性医師・看護師の離職防止に取り組む。
- ・新卒訪問看護師の養成・確保を行うために、養成プログラムを作成し、自律した活動ができる人材を育成する。

※各項目の目標値は平成 27 年度末の数値

オ 介護従事者の確保

- ・国の施策とあいまって平成 37 年までに介護職員の増加 11,300 人（平成 24 年対比）を目標とする。
 - ・福祉人材センターを通じての就職数
平成 26 年度実績 136 人 → 平成 27 年度 150 人
 - ・潜在的有資格者等再就業促進事業を通じての就職数
平成 26 年度実績 27 人 → 平成 27 年度 40 人
- ※11,300 人 介護職員の需給推計による数（需要数）
平成 37 年 平成 24 年
41,266 人－29,951 人÷11,300 人

② 計画期間

平成 27 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

■ 県南東部医療介護総合確保区域

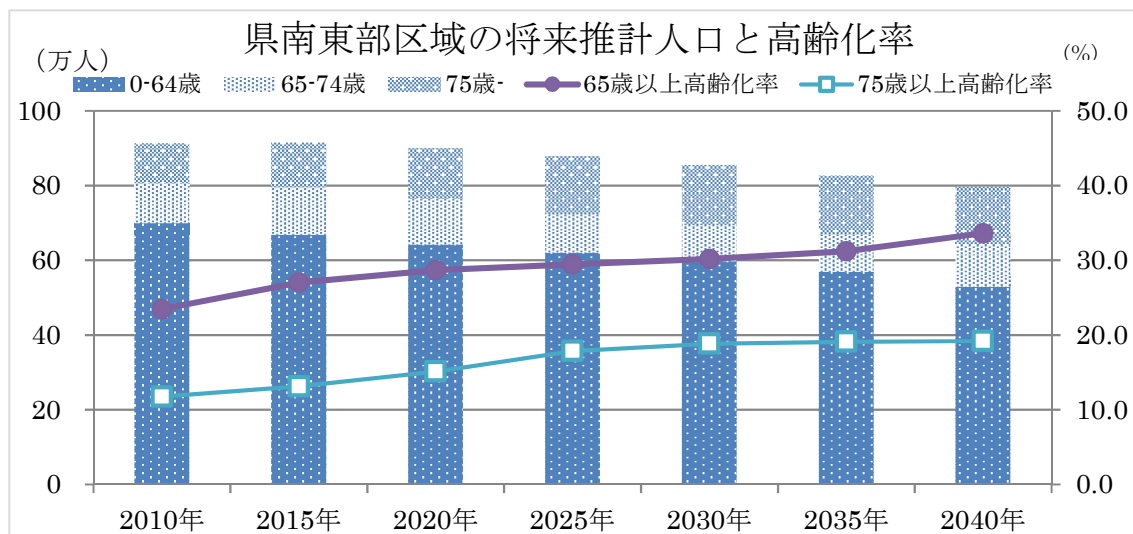
① 県南東部区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

（現状と将来予測）

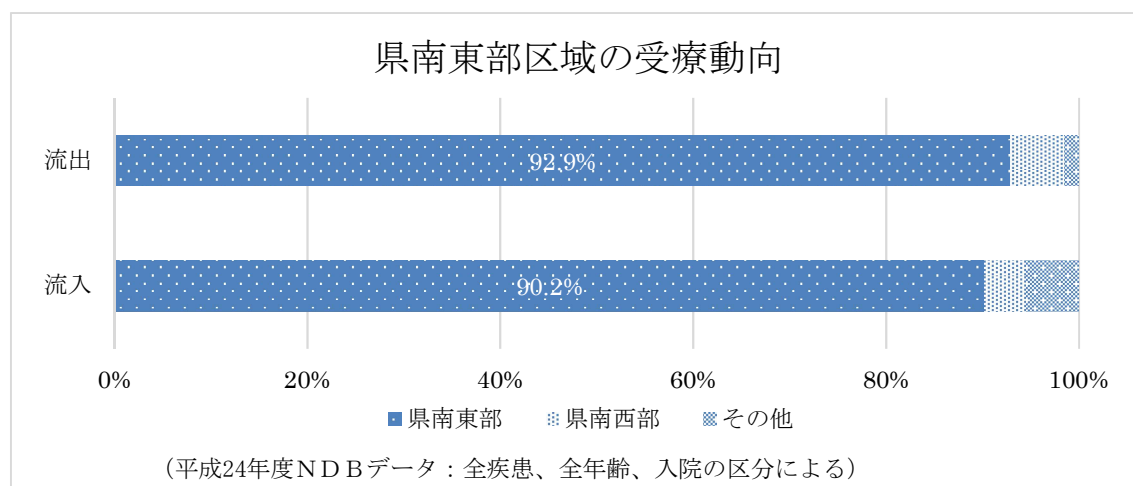
- ・面積 1,906.82k m²
- ・人口 919 千人（高齢化率 26.4%）
- ・病院数 77
- ・医師数 332.8 人（人口 10 万対）・（全国 237.8 人・県 290.2 人）
- ・看護師数 1,068.9 人（人口 10 万対）・（全国 796.6 人・県 1,032.2 人）
- ・一般病床、療養病床別医療機能（数値は、H26 病床機能報告による。（ ）は、人口 10 万対）

区 分	一般病床	療養病床	合 計	構成比
高度急性期	2,419(264.4)	0	2,419(264.4)	22.4%
急 性 期	4,772(521.5)	14(1.5)	4,786(523.1)	44.3%
回 復 期	891(97.4)	143(15.6)	1,034(113.0)	9.6%
慢 性 期	960(104.9)	1,602(175.1)	2,562(280.0)	23.7%
合 計	9,042(988.2)	1,759(192.2)	10,801(1,180.4)	100.0%

・人口データ（将来の人口推計）



・受療動向



・要支援・要介護認定者数（県南東部区域）

(単位: 人)

区 分	第6期計画			平成32年度	平成37年度
	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
要 支 援	15,312	16,546	17,878	20,224	22,062
要支援1	8,107	9,033	10,024	11,484	12,412
要支援2	7,205	7,513	7,854	8,740	9,650
要 介 護	37,670	38,820	40,059	43,982	48,970
要介護1	10,342	10,970	11,630	13,105	14,548
要介護2	9,698	10,030	10,377	11,518	12,852
要介護3	6,299	6,265	6,253	6,542	7,085
要介護4	5,924	6,078	6,244	6,905	7,932
要介護5	5,407	5,477	5,555	5,912	6,553
合 計	52,982	55,366	57,937	64,206	71,032

(課題)

- ・高度急性期及び急性期病床が全体の約 67%を占め、これらの受け皿となる回復期病床の構成割合が低い。
- ・区域の人口は、2040 年には、現在より約 118 千人の減少が見込まれる。
一方で、高齢者人口は今後増加を続け、2040 年には 268 千人と大幅な増加が見込まれている。
- ・人口の減少幅、高齢化率の上昇等いずれも県下 5 区域の中で最大の状況にあることから、高度急性期、急性期、回復期、慢性期の機能分化と、在宅医療、介護等も含めた連携の推進が課題。
- ・今後の人口構造の推移に対応したダイナミックな機能分化と連携が求められる。

(目標)

- ・医療機能の分化・連携を進めるため、地域の協議を踏まえ、県内で不足している回復期病床への転換を図る。
- ・在宅医療と介護の連携については、患者のニーズに合った包括的かつ継続的な医療・介護サービスの提供が課題であり、基幹病院とかかりつけ医が機能分担する病病連携や病診連携の充実、地域において在宅療養を支援する医療・介護連携体制の強化を図る。
- ・要介護状態等になっても、住み慣れた地域で日常生活を継続できるよう、在宅サービス等の充実・強化を図る。

② 計画期間

平成 27 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

■ 県南西部医療介護総合確保区域

① 県南西部区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

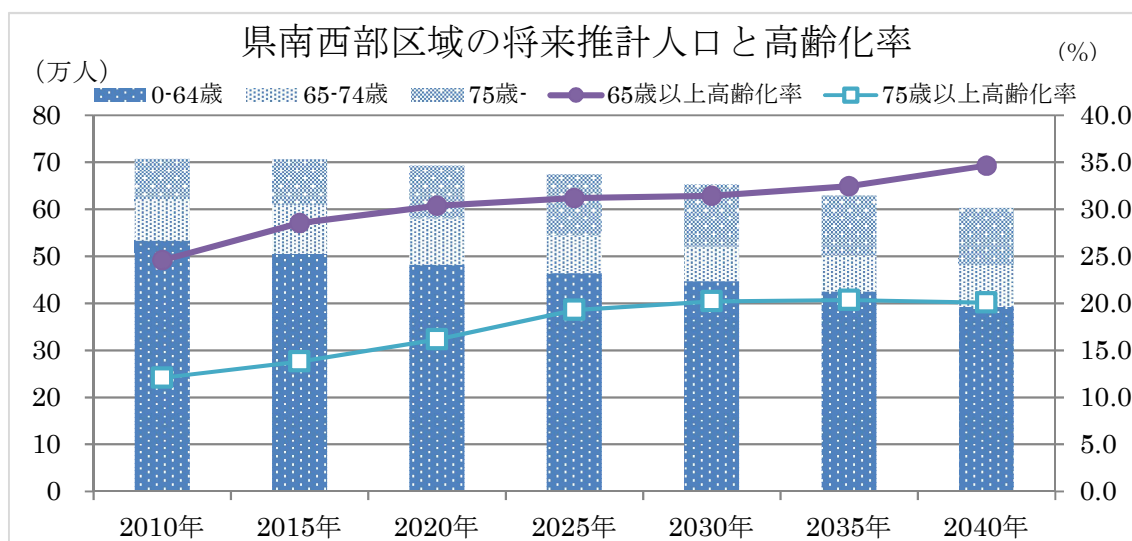
(現状と将来予測)

- ・面積 1,123.03k m²
- ・人口 711 千人 (高齢化率 27.4%)
- ・病院数 59
- ・医師数 281.9 人 (人口 10 万対) ・ (全国 237.8 人・県 290.2 人)
- ・看護師数 1,005.3 人 (人口 10 万対) ・ (全国 796.6 人・県 1,032.2 人)

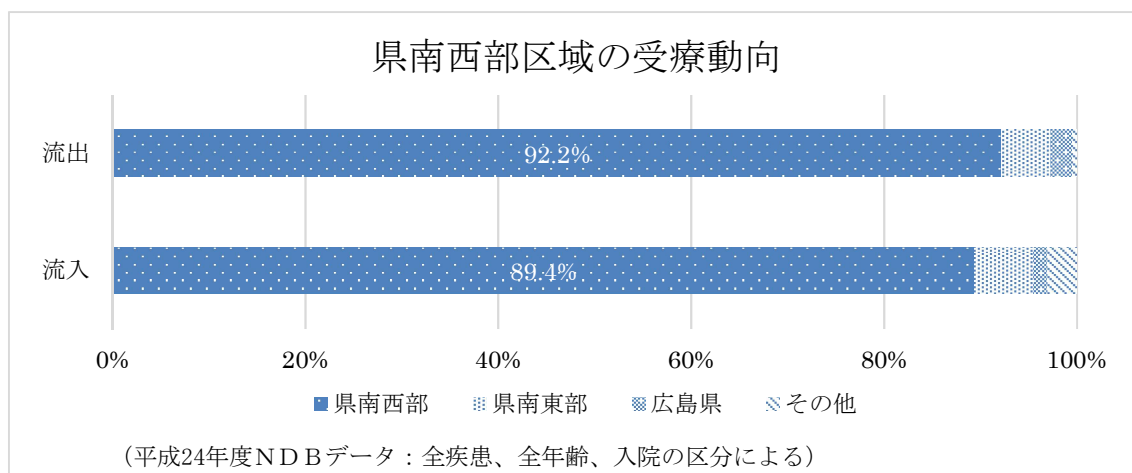
・一般病床、療養病床別医療機能（数値は、H26 病床機能報告による。（ ）は、人口 10 万対）

区 分	一般病床	療養病床	合 計	構成比
高度急性期	2,101 (297.6)	0	2,101 (297.6)	25.0%
急 性 期	2,958 (419.0)	22 (3.1)	2,980 (422.1)	35.5%
回 復 期	727 (103.0)	350 (49.6)	1,077 (152.5)	12.8%
慢 性 期	760 (107.6)	1,479 (209.5)	2,239 (317.1)	26.7%
合 計	6,546 (927.2)	1,851 (262.2)	8,397 (1,189.4)	100.0%

・人口データ（将来の人口推計）



・受療動向



・要支援・要介護認定者数（県南西部区域）

（単位：人）

区 分	第6期計画			平成32年度	平成37年度
	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
要 支 援	13,102	13,616	14,180	16,486	18,246
要支援1	5,437	5,560	5,716	6,381	6,933
要支援2	7,665	8,056	8,464	10,105	11,313
要 介 護	27,043	27,780	28,469	29,616	32,399
要介護1	6,655	6,585	6,497	6,776	7,416
要介護2	7,188	7,678	8,212	9,173	10,192
要介護3	4,762	4,911	5,049	5,302	5,744
要介護4	4,773	4,895	4,978	4,799	5,131
要介護5	3,665	3,711	3,733	3,566	3,916
合 計	40,145	41,396	42,649	46,102	50,645

（課題）

- ・高度急性期病床の構成割合が高い反面、回復期病床の構成割合が低い。
- ・人口の減少は、2040年までに約102千人が減少する反面、高齢化率は6.2%上昇するなど県南東部と同様の状況にある。
- ・高度急性期、急性期、回復期、慢性期の機能分化と、在宅医療、介護等も含めた連携の推進が課題。
- ・今後の人口構造の推移に対応したダイナミックな機能分化と連携が求められる。

（目標）

- ・医療機能の分化・連携を進めるため、地域の協議を踏まえ、県内で不足している回復期病床への転換を図る。
- ・在宅医療と介護の連携については、患者のニーズに合った包括的かつ継続的な医療・介護サービスの提供が課題であり、基幹病院とかかりつけ医が機能分担する病病連携や病診連携の充実、地域において在宅療養を支援する医療・介護連携体制の強化を図る。
- ・要介護状態等になっても、住み慣れた地域で日常生活を継続できるよう、在宅サービス等の充実・強化を図る。

② 計画期間

平成27年4月1日～令和7年3月31日

■ 高梁・新見医療介護総合確保区域

① 高梁・新見区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

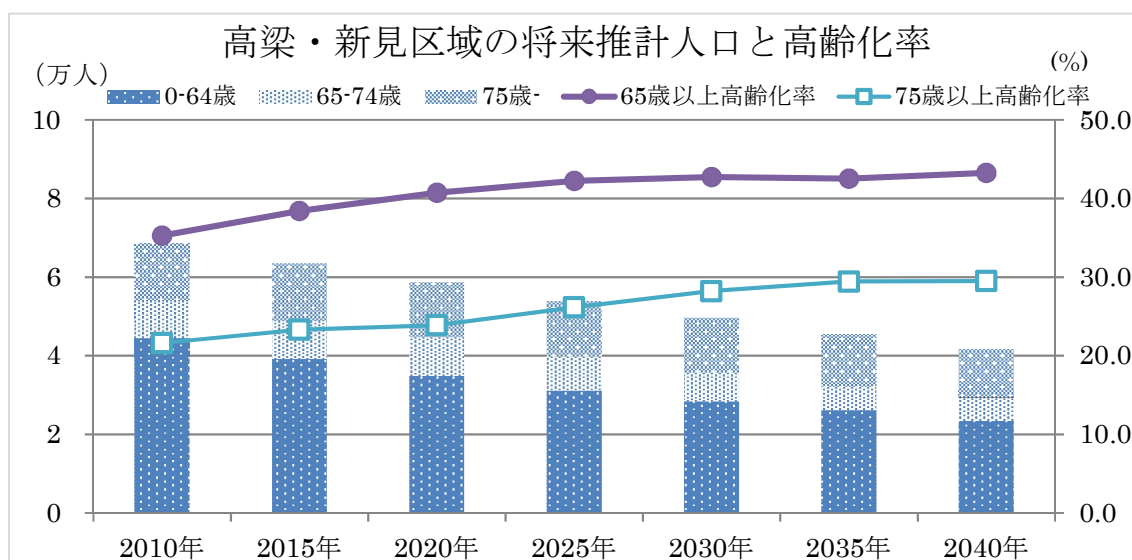
（現状と将来予測）

- ・面 積 1,340.28k m²
- ・人 口 65千人（高齢化率 37.3%）

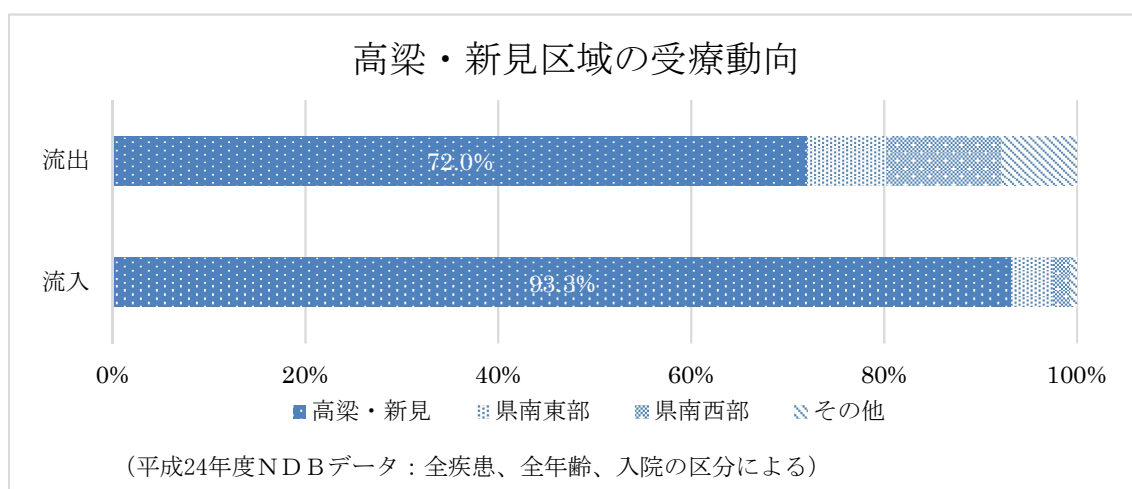
- ・病院数 9
- ・医師数 154.2人（人口10万対）・（全国237.8人・県290.2人）
- ・看護師数 811.4人（人口10万対）・（全国796.6人・県1,032.2人）
- ・一般病床、療養病床別医療機能（数値は、H26病床機能報告による。（）は、人口10万対）

区 分	一般病床	療養病床	合 計	構成比
高度急性期	0	0	0	0%
急性期	377(598.4)	0	377(598.4)	46.4%
回復期	86(136.5)	27(42.9)	113(179.4)	13.9%
慢性期	0	322(511.1)	322(511.1)	39.7%
合 計	463(734.9)	349(554.0)	812(1,288.9)	100.0%

- ・人口データ（将来の人口推計）



- ・受療動向



・要支援・要介護認定者数（高梁・新見区域）

（単位：人）

区 分	第6期計画			平成32年度	平成37年度
	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
要 支 援	1,653	1,650	1,548	1,508	1,392
要支援1	913	910	855	828	759
要支援2	740	740	693	680	633
要 介 護	4,361	4,495	4,658	4,940	4,738
要介護1	1,225	1,267	1,315	1,364	1,282
要介護2	971	990	1,008	1,043	1,008
要介護3	785	834	900	987	946
要介護4	705	708	715	784	760
要介護5	675	696	720	762	742
合 計	6,014	6,145	6,206	6,448	6,130

（課題）

- ・高齢化率が37.3%と高く、2040年には43.4%にまで上昇する見込み。
- ・人口の減少率も2015年と2040年を比較すると約35%の減少が見込まれる。
- ・人口10万対の医師数が5区域の中で最も少ないことから医師等の確保が課題。
- ・受療動向から約20%の患者が県南東部、県南西部に流出している。
- ・高度急性期病床がないため、県南の区域も含めた医療連携体制の構築が必要。
- ・将来、人口が減少していく中で適正な質と量の医療の提供を継続できる体制の整備が必要である。

（目標）

- ・区域外の専門的医療機能を有する医療機関との連携を推進する。
- ・在宅医療と介護の連携については、患者のニーズに合った包括的かつ継続的な医療・介護サービスの提供が課題であり、基幹病院とかかりつけ医が機能分担する病病連携や病診連携の充実、地域において在宅療養を支援する医療・介護連携体制の強化を図る。
- ・医師、看護師等の確保・養成に努め、地域における医療提供体制の充実を図る。
- ・要介護状態等になっても、住み慣れた地域で日常生活を継続できるよう、在宅サービス等の充実・強化を図る。

② 計画期間

平成27年4月1日～令和7年3月31日

■ 真庭医療介護総合確保区域

① 真庭区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

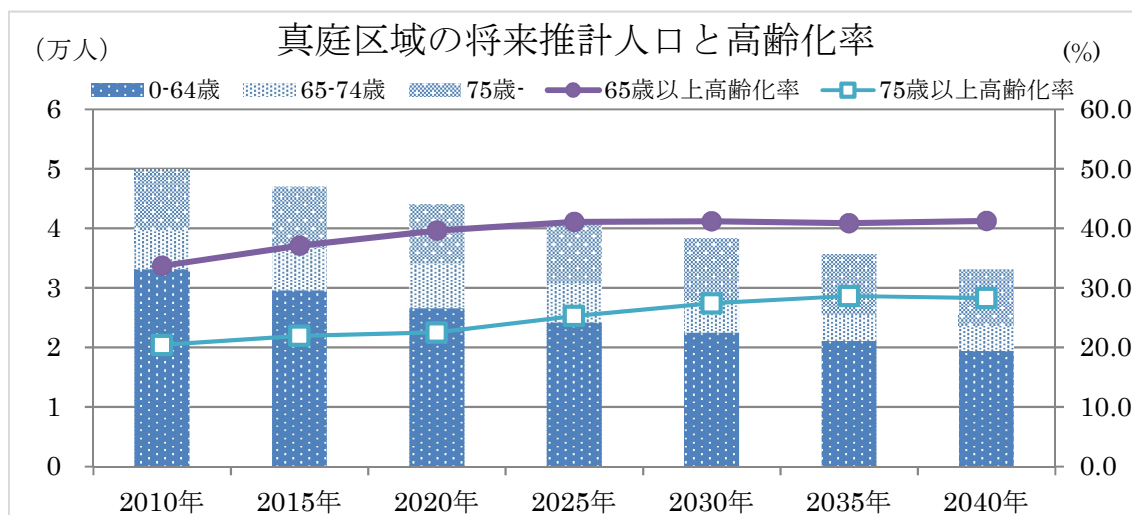
（現状と将来予測）

- ・面 積 895.53k m²

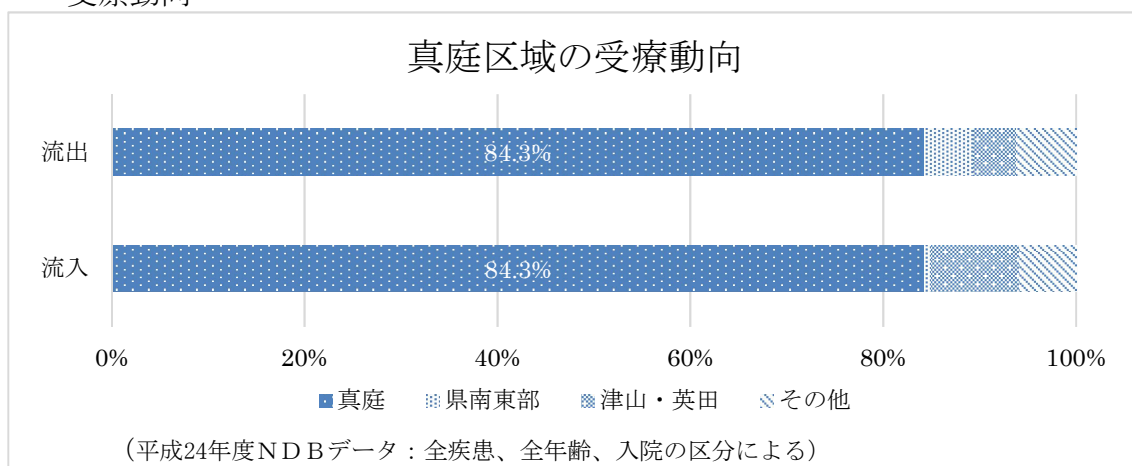
- ・人 口 47 千人（高齢化率 38.3%）
- ・病 院 数 7
- ・医 師 数 156.3 人（人口 10 万対）・（全国 237.8 人・県 290.2 人）
- ・看護師数 1,093.8 人（人口 10 万対）・（全国 796.6 人・県 1,032.2 人）
- ・一般病床、療養病床別医療機能（数値は、H26 病床機能報告による。（ ）は、人口 10 万対）

区 分	一般病床	療養病床	合 計	構成比
高度急性期	0	0	0	0%
急 性 期	382(812.8)	0	382(812.8)	58.0%
回 復 期	55(117.0)	0	55(117.0)	8.3%
慢 性 期	0	222(472.3)	222(472.3)	33.7%
合 計	437(929.8)	222(472.3)	659(1,402.1)	100.0%

- ・人口データ（将来の人口推計）



- ・受療動向



・要支援・要介護認定者数（真庭区域）

（単位：人）

区 分	第6期計画			平成32年度	平成37年度
	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
要 支 援	841	912	999	1,109	1,127
要支援1	438	469	507	553	571
要支援2	403	443	492	556	556
要 介 護	2,768	2,838	2,946	3,199	3,231
要介護1	828	882	951	1,080	1,120
要介護2	570	577	586	622	627
要介護3	385	369	371	398	410
要介護4	509	530	553	592	582
要介護5	476	480	485	507	492
合 計	3,609	3,750	3,945	4,308	4,358

（課題）

- ・高梁・新見区域同様、人口の減少幅、高齢化率の上昇とも著しいことから、医療と介護の連携等が課題。
- ・人口10万対医師数が少ないことから、医師の確保が課題。
- ・高度急性期病床がないため、津山・英田区域や県南の区域も含めた医療連携体制の構築と急性期、回復期、慢性期の機能分化と、在宅、介護施設等も含めた連携の推進が課題。
- ・将来、人口が減少していく中で適正な質と量の医療の提供を継続できる体制の整備が必要である。

（目標）

- ・区域外の専門的医療機能を有する医療機関との連携を推進する。
- ・在宅医療と介護の連携については、患者のニーズに合った包括的かつ継続的な医療・介護サービスの提供が課題であり、基幹病院とかかりつけ医が機能分担する病病連携や病診連携の充実、地域において在宅療養を支援する医療・介護連携体制の強化を図る。
- ・医師、看護師等の確保・養成に努め、地域における医療提供体制の充実を図る。
- ・要介護状態等になっても、住み慣れた地域で日常生活を継続できるよう、在宅サービス等の充実・強化を図る。

② 計画期間

平成27年4月1日～令和7年3月31日

■ 津山・英田医療介護総合確保区域

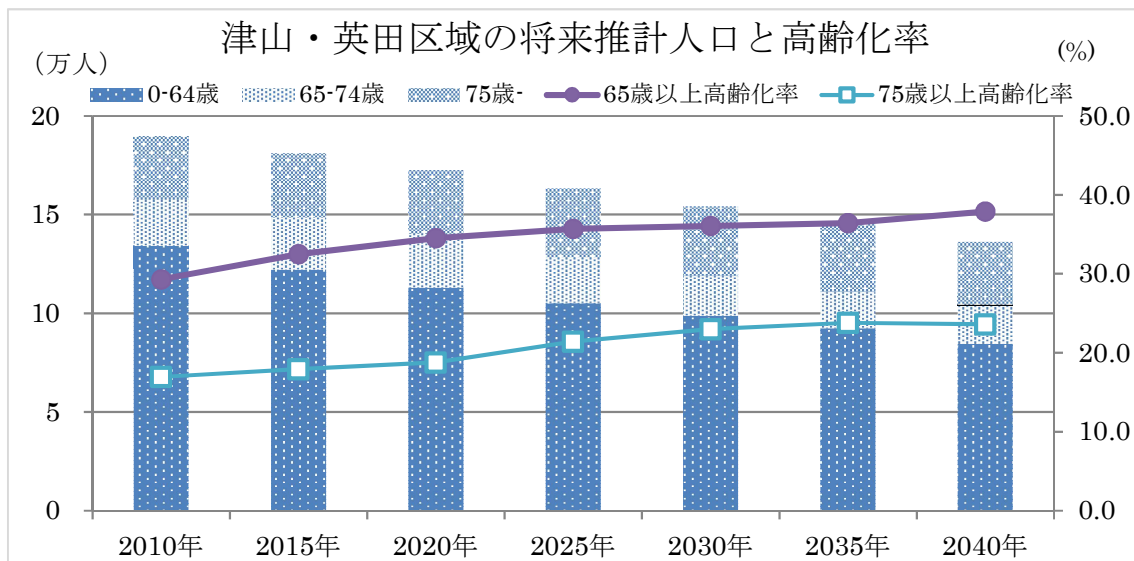
① 津山・英田区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

(現状と将来予測)

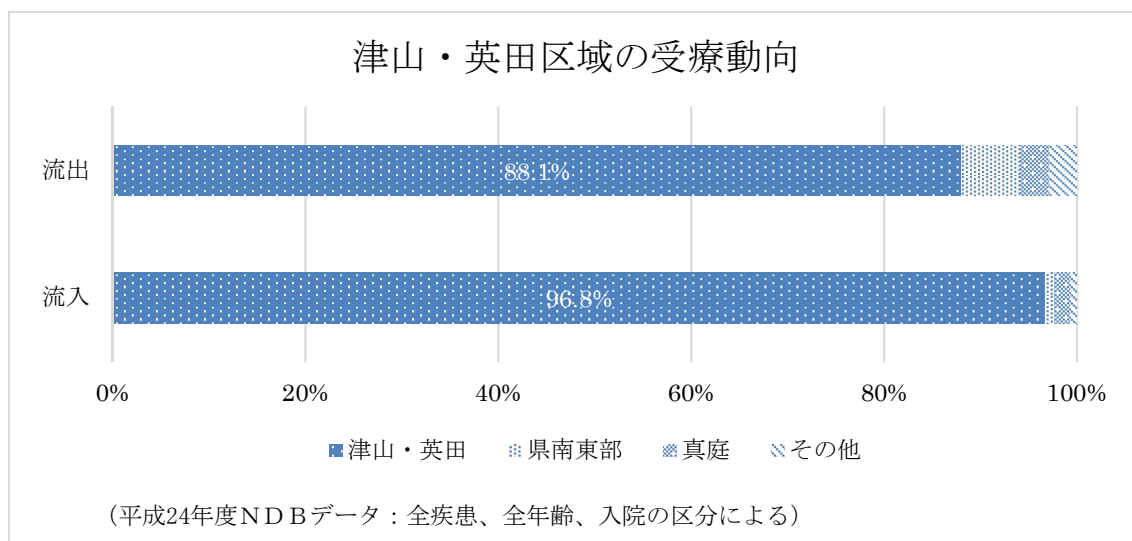
- ・面 積 1,847.55k m²
- ・人 口 183 千人 (高齢化率 34.8%)
- ・病 院 数 18
- ・医 師 数 194.2 人 (人口 10 万対) ・ (全国 237.8 人・県 290.2 人)
- ・看護師数 1,016.6 人 (人口 10 万対) ・ (全国 796.6 人・県 1,032.2 人)
- ・一般病床、療養病床別医療機能 (数値は、病床機能報告による。() は、人口 10 万対)

区 分	一般病床	療養病床	合 計	構成比
高度急性期	493(270.9)	0	493(270.9)	21.7%
急 性 期	676(371.4)	66(36.3)	742(407.7)	32.7%
回 復 期	196(107.7)	60(33.0)	256(140.7)	11.3%
慢 性 期	62(34.1)	715(392.9)	777(426.9)	34.3%
合 計	1,427(784.1)	841(462.1)	2,268(1,246.2)	100.0%

・人口データ (将来の人口推計)



・受療動向



・要支援・要介護認定者数（津山・英田区域）

(単位:人)

区 分	第6期計画			平成32年度	平成37年度
	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
要 支 援	3,364	3,498	3,622	3,732	3,714
要支援1	1,728	1,809	1,888	1,943	1,914
要支援2	1,636	1,689	1,734	1,789	1,800
要 介 護	10,069	10,360	10,709	11,231	11,130
要介護1	2,602	2,686	2,786	2,916	2,845
要介護2	2,408	2,526	2,654	2,801	2,782
要介護3	1,713	1,693	1,690	1,714	1,702
要介護4	1,633	1,696	1,778	1,901	1,891
要介護5	1,713	1,759	1,801	1,899	1,910
合 計	13,433	13,858	14,331	14,963	14,844

(課題)

- ・他の区域同様、今後の人口の減少数・率とも高いうえ、高齢化率の上昇が著しいことから、医療と介護の連携等が課題。
- ・人口 10 万対医師数が少ないことから医師の確保が課題。
- ・高度急性期病床の構成割合が比較的高い。高度急性期、急性期、回復期、慢性期の機能分化と、在宅医療、介護等も含めた連携の推進が課題。
- ・将来、人口が減少していく中で適正な質と量の医療の提供を継続できる体制の整備が必要である。

(目標)

- ・区域外の専門的医療機能を有する医療機関との連携を推進する。
- ・在宅医療と介護の連携については、患者のニーズに合った包括的かつ継続的な

医療・介護サービスの提供が課題であり、基幹病院とかかりつけ医が機能分担する病病連携や病診連携の充実、地域において在宅療養を支援する医療・介護連携体制の強化を図る。

- ・医師、看護師等の確保・養成に努め、地域における医療提供体制の充実を図る。
- ・要介護状態等になっても、住み慣れた地域で日常生活を継続できるよう、在宅サービス等の充実・強化を図る。

② 計画期間

平成27年4月1日～令和7年3月31日

(4) 目標の達成状況

別紙「事後評価」のとおり

2 事業の評価方法

(1) 関係者からの意見聴取の方法

- | | |
|------------------------------|--|
| ・平成27年1月 5日 | 関係団体へ事業提案募集の通知発出（募集締切2月6日）
県医師会、県病院協会、県看護協会、県薬剤師会、県歯科医師会、県自治体病院協議会、県精神科病院協会、岡山大学、川崎医科大学、市町村、保健所 |
| 〃 5日 | 県医師会に概要説明 |
| 〃 7日 | 県内病院長の勉強会（約50名）で概要説明 |
| 〃 21日 | 関係団体へ事業提案募集の通知発出（募集締切2月6日）
県介護保険関連団体協議会、県老人クラブ連合会、認知症の人と家族の会岡山県支部、日本福祉用具供給協会中国支部、介護労働安定センター岡山支部、県内介護福祉士養成施設、県内福祉系大学、市町村 |
| 〃 23日 | 県看護協会と意見交換 |
| 2月20日 | 県介護保険制度推進委員会（第1回） |
| ※ 以下、提案のあった事業に関する関係団体との意見交換等 | |
| 3月 2日 | 県医師会 |
| 4月 8日 | 川崎医科大学 |
| 〃 13日 | 県医療対策協議会（第1回） |
| 〃 14日 | 県病院協会、県看護協会 |
| 〃 15日 | 県薬剤師会、県歯科医師会 |
| 〃 16日 | 県医師会、岡山大学 |
| ※ 上記以外にも、関係団体と複数回意見交換等を実施 | |

4月24日	県医療対策協議会（第2回）
5月26日	県介護保険制度推進委員会（第2回）
6月15日	県医療対策協議会（第3回）

（2）事後評価の方法

計画の事後評価にあたっては、事業ごとの目標、達成状況を継続的に把握し、県医療対策協議会、県介護保険制度推進委員会等の意見を聞きながら評価を行い、必要に応じて計画の見直しを行うなどPDCAサイクルにより計画を推進する。

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業						
事業名	【No.1】連携病院間の画像情報の共有に関するモデル事業					【総事業費】 11,767 千円	
事業の対象 となる医療 介護総合確 保区域	県全体						
事業の実施 主体	岡山大学病院						
事業の目標	現在、基幹病院では、夜間、休日の画像診断業務に対応するために、それぞれ1名以上の放射線科専門医が待機しており、このことが、専門医への負担の増加と地域偏在につながっている。例えば、岡山市内の6病院で6名以上が待機している一方で、高梁・新見医療圏では、対応ができる専門医がいない。 放射線科医の業務の効率化と画像診断の質の向上を目指して、複数の病院間で画像情報を相互に閲覧できるシステムを構築し、これを運用してその有効性を検証する。						
事業の期間	平成27年度から平成29年度						
事業の内容	医療機能の分化、連携を推進する一環として、複数の病院間で画像情報を相互に閲覧できるシステム構築する。これに参加する病院の放射線科専門医が、休日・夜間の画像診断業務を輪番制で担当したり、診断困難な症例の画像情報を参加病院の複数の専門医で検討する等により、専門医の業務の効率化と画像診断の質の向上を目指す。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		11,767 （千円）	基金充当 額(国費) における 公民の別	公	7,844 （千円）
		基金	計	11,767 （千円）			
			国	7,844 （千円）			
			県	3,923 （千円）		民	0 （千円）
		その他		0 （千円）			うち受託事業等 (再掲) 0 （千円）
備考	平成27年度:0千円、平成28年度:6,477千円、平成29年度:5,290千円						

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業						
事業名	【No.2】脳卒中超急性期治療のための画像伝送モデル事業					【総事業費】	10,575 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	川崎医科大学総合医療センター						
事業の目標	脳卒中の画像診断について専門医の意見を求める際に、タイムリーな画像の伝送はできておらず、口頭での電話相談や事後の画像診断になっている。 画像伝送を行うことで、脳卒中専門医が不在の新見エリアの医療機関等においても、脳卒中患者の迅速・適切な治療が可能になる。						
事業の期間	平成27年度から平成29年度						
事業の内容	脳卒中専門医が不在の医療機関から、脳卒中専門医が携行するタブレット端末にCTやMRI画像の転送システムを導入することで、素早い診断・治療へ結びつけることができるようにする。 川崎医科大学附属川崎病院の3人の脳卒中専門医が、画像転送システムの受信用タブレットを常時携帯し、オンデマンドで支援する。 新見エリア等の脳卒中専門医が不在の医療機関と川崎医科大学総合医療センターとの間で、モデル事業として実施し有効性を検証する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		10,575 (千円)	基金充当額(国費)における 公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	10,575 (千円)			
			国	7,050 (千円)			
			県	3,525 (千円)		民	7,050 (千円)
		その他		0 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
備考	平成27年度:840千円、平成28年度:4,602千円、平成29年度:5,133千円						

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業						
事業名	【No.3】晴れやかネット拡張機能整備事業					【総事業費】	238,414 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県、医療機関						
事業の目標	医療機関等が相互に診療情報を共有する医療ネットワーク岡山(愛称:晴れやかネット)及び、拡張機能(医療・介護関係職種の情報共有システム)のシステム改修を行い、医療、介護関係職種の参加を推進する。 アウトカム: 拡張機能を利用して連携を行う者の数(利用者数) H27年度(600人) → R4年度末(1,000人)						
事業の期間	平成27年度から令和4年度						
事業の内容	医療・介護サービスの質の向上と事業者の業務の効率化を目指して、医療ネットワーク岡山(愛称:晴れやかネット)及び、拡張機能(医療・介護関係職種の情報共有システム)の強化を行う。 ①サービス提供記録を報酬請求に必要な帳票の出力に反映させる機能の付加等のシステム改修を行う。 ②介護事業者の拡張機能利用を促進するために、介護事業者の利用に係る費用を一定期間免除する。 ③医療と介護の連携を向上させるため、「晴れやかネット」基本機能のシステム改修を行う。また、情報を開示する施設に対して、GWサーバー更新に係る費用の補助を実施する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		238,414 (千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	238,414 (千円)		民	158,942 (千円)
			国	158,942 (千円)			
			県	79,472 (千円)			
		その他	0 (千円)			うち受託事業等(再掲) 158,942 (千円)	
備考	平成27年度:37,798千円、平成28年度:91,608千円、平成29年度:66,890千円 平成30年度:0千円、令和元年度:0千円、令和2年度:0千円、令和3年度:0千円 令和4年度:42,118千円						

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業					
事業名	【No.4】病床機能分化・連携促進のための基盤整備事業				【総事業費】	1,786,272 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県、医療機関					
事業の目標	<p>今後の人口減少・高齢化に伴う医療ニーズの質・量の変化や労働力人口の減少を踏まえて、質の高い医療を効率的に提供できる体制を構築していく必要がある。</p> <p>平成30年7月1日現在の本県の回復期病床数は3,571床であるが、地域医療構想における令和7年の回復期に係る必要病床数は6,480床と約3,000床不足しており、病床機能の分化・連携の取組を促進する。</p>					
事業の期間	平成27年度から令和5年度					
事業の内容	<p>地域医療構想における必要病床数に対し、病床機能報告にて過剰となっている機能病床について、地域医療構想調整会議における協議を踏まえ、不足する機能病床へ転換するための施設整備に対して補助を行う。</p> <p>また、地域医療構想の達成に向けた医療機関の統合・事業縮小の際に要する費用に対しても補助を行う。</p>					
事業に要する費用の額	金額	総事業費	1,786,272 (千円)	基金充当	公	0 (千円)
		計	893,136 (千円)	額(国費)		
	基金	国	595,424 (千円)	における		
		県	297,712 (千円)	公民の別	民	595,424 (千円)
		その他	893,136 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
備考	<p>平成27年度:0千円、平成28年度:0千円、平成29年度:0千円、平成30年度:47,713千円、令和元年度:47,413千円、令和2年度:354,079千円、令和3年度:140,625千円</p> <p>令和4年度:18,282千円、令和5年度:284,724千円</p>					

事業の区分	1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業						
事業名	【No.5】県北放射線治療体制整備事業				【総事業費】 493,746 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	津山・英田区域及び真庭区域						
事業の実施主体	津山中央病院						
事業の目標	<p>岡山県北部の津山・英田区域において放射線治療を提供しているのは、がん診療連携拠点病院である津山中央病院だけであるが、同院のリニアックは10年以上前の装置であり、高い精度が要求される場合には、県南部の医療機関に頼らざるを得ない。また、隣接する真庭区域には、地域がん診療病院しかなく、放射線治療は提供しておらず、多くは県南部の医療機関に頼っている。このため、両区域の患者及び家族の時間的・体力的な負担は大きい状況にある。</p> <p>津山中央病院に、IMRT(強度変調放射線治療)装置を導入することにより、これまで県南部での治療を余儀なくされていた患者が、身近で放射線治療を受けられるようになるとともに、津山のみならず県北における放射線治療の中核施設として県南・県北の医療機能の役割分担を推進する。</p>						
事業の期間	平成27年度から平成28年度						
事業の内容	<p>岡山県北部(津山・英田区域及び真庭区域)のがん患者が遠く県南部に行かなくても高度な放射線治療を受けることができるよう、県北唯一のがん診療連携拠点病院に、IMRT装置を整備する。</p> <p>なお、このIMRT装置の導入については、津山市医師会、美作医師会、真庭市医師会からも支持されている。</p>						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		493,746 (千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	246,873 (千円)			
			国	164,582 (千円)			
			県	82,291 (千円)		民	164,582 (千円)
		その他		246,873 (千円)			うち受託事業等(再掲) 0 (千円)
備考	平成27年度:0千円、平成28年度:246,873千円						

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業						
事業名	【No.6】地域包括ケア体制整備事業					【総事業費】	4,003 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県医師会						
事業の目標	医療関係者が、2025年の医療需要予測に基づいて医療機能の分化と連携の方向性を共有し、将来担うべき医療機能を自ら選択して機能分化を進めるとともに、医療・介護関係団体、県・市町村行政等がしっかり協働して地域特性に即した最適な地域包括ケアシステムの構築に取り組めるよう、県医師会が、課題の整理とその対策の企画立案、関係団体への働きかけ、地区医師会や市町村への支援を行う等の仕組みを創設し運営する。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	岡山県医師会地域包括ケア部会において、次の事業を実施する。 <ul style="list-style-type: none">・地域包括ケア部会に関する協議会の設置運営・地域包括ケアコーディネーターの配置・市町村担当者・郡市地区医師会地域包括ケア協働推進の支援事業・岡山地域包括ケア・地域医療構想研究会設置運営・講演会開催・その他、地域包括ケアシステム構築、推進に必要な事業						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		4,003（千円）	基金充当額(国費)における公民の別	公	0（千円）
		基金	計	4,003（千円）			
			国	2,669（千円）			
			県	1,334（千円）		民	2,669（千円）
		その他		0（千円）			うち受託事業等（再掲） 0（千円）
備考							

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業						
事業名	【No.7】かかりつけ医認定事業					【総事業費】 785 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県医師会						
事業の目標	日本医師会・四病院団体協議会の合同提言によると、「かかりつけ医は、患者の生活背景を把握し、適切な診療および保健指導を行い、自己の専門性を超えて診療や指導を行えない場合は、地域の医師等と協力して解決策を提供する。また、日常診療を行うほかに、地域と住民との信頼関係を構築し、健康相談、健診・がん検診、母子保健、学校保健、行政活動に積極的に参加するとともに保健、介護、福祉関係との連携を行う。」としている。 地域包括ケアシステムの中核となる「かかりつけ医」を普及させるため、県医師会が「かかりつけ医」に期待される役割とその重要性等をテーマにした研修会を開催し、受講を修了した医師を「かかりつけ医」に認定する。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	「かかりつけ医」を普及させるため、「かかりつけ医」に期待される役割とその重要性等をテーマにした研修会を開催し、受講を修了した医師を「かかりつけ医」に認定する。 研修の内容は、①「かかりつけ医」に期待される役割とその重要性、②保健・福祉制度の概要とその利用方法、③関係者との連携方法を含むものとする。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		785（千円）	基金充当額(国費)における 公民の別	公	0（千円）
		基金	計	785（千円）			
			国	523（千円）			
			県	262（千円）		民	523（千円）
		その他		0（千円）			うち受託事業等 （再掲） 0（千円）
備考							

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業						
事業名	【No.8】訪問歯科診療の質の向上に向けたICT導入モデル事業					【総事業費】	1,188 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	岡山大学病院						
事業の目標	将来的にはICT(情報通信技術)を活用し、医療情報ネットワークで用いるデータを往診先からの画像を見ながら診療している場での遠隔的な指導を可能にする歯科往診支援システムを描いている。その前段階として、往診の現場で撮影した画像を使い、大学で歯科医師を対象に公開講座形式で実際に訪問診療を行った歯科医師を指導しながら、講座に参加する他の歯科医師には間接的な臨床実習となるよう講座を構成することで、歯科往診に取り組もうとする歯科医師のバックアップ機能をもたせる。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	在宅歯科診療で最も問題となるのは、診療室とは異なり限られた光源や器具の中で治療を行うことによる医療の質の低下や、症例の少なさに起因する経験不足のための訪問治療への躊躇である。本事業では、歯科医療従事者にウェアラブルカメラを装着させ、自身の診療内容を画像という形で記録させ、その記録を使って訪問診療に携わった歯科医師本人だけでなく、公開講座の機会を設けて多数の歯科医師に情報提供することは、経験不足という問題を少しでも解消できる。また、記録された画像は、大学所属の歯科医師の指導によって質の向上が図れるとともに、ビジュアル化された患者情報は歯科往診に携わる歯科医師の技術向上と、安全な治療の確保が期待できる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		1,188 (千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	396 (千円)
		基金	計	594 (千円)		民	0 (千円)
			国	396 (千円)			
			県	198 (千円)			
		その他	594 (千円)	うち受託事業等(再掲)		0 (千円)	
備考							

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業						
事業名	【No.9】訪問看護供給体制の拡充事業					【総事業費】 6,377 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県(岡山県訪問看護ステーション連絡協議会に委託)						
事業の目標	県内の全ての訪問看護ステーションにおいて、24時間オンコールを可能とする。 ○夜間等に訪問看護サービスを提供する体制を整えている訪問看護ステーションの割合 平成26年度現在93. 2% → 平成29年度中に100%						
事業の期間	平成27年度から平成29年度						
事業の内容	①課題検討会 看護協会、医師会、市町村、県等で構成する委員会を設置し、事業所間の連携体制の構築や人員確保策等について検討 ②人材確保等に向けた研修・相談会等 子育て等で離職中の潜在看護師等を対象とした復職支援(研修会、相談会、訪問看護ステーションの就職斡旋等) 新任訪問看護師を対象に、定着支援のための研修・相談会を実施 事業所管理者を対象に、仕事と家庭の両立を可能にする働き方(託児機能等の労働環境改善、短時間勤務、フレックス等)の好事例等を学ぶ研修・相談会を実施 管理者や訪問看護師の質の確保と定着支援のため、訪問看護マニュアル・評価指標の作成等を実施						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		6,377 (千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	6,377 (千円)			
			国	4,251 (千円)			
			県	2,126 (千円)		民	4,251 (千円)
		その他		0 (千円)			うち受託事業等(再掲) 4,251 (千円)
備考	平成27年度:2,753千円、平成28年度:604千円、平成29年度:3,020千円						

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業						
事業名	【No.11】中重度の要介護者を支える在宅サービスの普及促進事業				【総事業費】 2,400 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	医療ニーズの高い中重度の要介護高齢者の在宅生活の継続を支援するため、複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)の参入促進や訪問看護ステーションの規模拡大等を図る。 (1)訪問看護ステーションが所在する市町村数:27(平成28年度までに全市町村への普及をめざす) (2)県内の複合型サービス事業所数:5(平成28年度までに老人福祉圏域ごとに1事業所の新規参入をめざす)						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	①看護師の起業支援 看護師養成を行う大学、専門学校等が、潜在看護師や介護現場を希望する看護師に対し、在宅医療・訪問看護の知識・技術・事例や複合型サービス等の起業について学ぶ講座を開設する場合に、経費を助成する。 ②訪問看護ステーションの規模拡大 訪問看護の経験の無い看護職員を採用して規模拡大を図る事業所に対し、経費を助成する。 (※訪問看護ステーションは、事業所の規模が大きくなるほど看護師一人当たりの訪問件数等が多くなるが、ベテラン職員が経験の無い職員に同行することに伴う介護報酬の減収等が規模拡大のネックとなっているため、財政支援を行うもの。)						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		2,400 (千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	2,400 (千円)			
			国	1,600 (千円)			
			県	800 (千円)		民	1,600 (千円)
		その他		0 (千円)			うち受託事業等(再掲) 0 (千円)
備考							

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業						
事業名	【No.10】精神科在宅医療ネットワーク事業				【総事業費】 133 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	より多くの精神障害のある人やひきこもりの人、依存症の人がその人らしい地域での生活継続が可能となる精神科在宅医療ネットワークの構築を目指す。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	<p>長期入院患者の地域定着をさらに促進し、ひきこもりの人、アルコール・薬物依存症の人など精神障害のある人の地域包括ケア体制を整備する。</p> <p>①在宅精神科医療ネットワーク構築のための検討 保健医療福祉介護関係者、住居・雇用・教育・法律関係者等との情報共有・課題共有を行い、ネットワーク構築のための検討を行う。</p> <p>②地域支援関係者の人材育成 保健医療福祉関係者への地域定着促進研修、処遇困難事例対応研修を行う。</p>						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		133 (千円)	基金充当額(国費)における 公民の別	公	89 (千円)
		基金	計	133 (千円)		民	0 (千円)
			国	89 (千円)			
			県	44 (千円)			
		その他		0 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
備考							

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業						
事業名	【No.12】在宅歯科医療連携室整備事業					【総事業費】 606 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	歯科往診サポートセンターの機能を強化し、家族や医療介護関係者からの歯科往診依頼に対し、サポートセンターに登録している歯科医療機関と調整を図って歯科医師の派遣を行う。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	①歯科医師会館内に設置する歯科往診サポートセンターでの歯科往診依頼に対する派遣歯科医師の紹介 ②在宅療養者の口腔ケアに関する電話相談対応 ③歯科往診機器の貸出 ④効率的な事業運営を図るための評価会議の開催						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		606 (千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	606 (千円)			
			国	404 (千円)			
			県	202 (千円)		民	404 (千円)
		その他		0 (千円)			うち受託事業等(再掲) 404 (千円)
備考							

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業						
事業名	【No.13】在宅歯科往診普及センターの運営に係る事業					【総事業費】 1,962 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	地域包括ケアシステムの推進には在宅医療の整備が欠かせず、歯科往診を含め地域における歯科保健医療体制の整備や、地域での他職種との関係づくりを進め、在宅歯科医療への理解とその定着を図っていく必要がある。そのため、地区歯科医師会ごとに活動拠点となる普及センターを設置する。						
事業の期間	平成27年度から平成28年度						
事業の内容	①平成27、28年度に新たに県内に7カ所の在宅歯科往診普及センターを設置する。 ②普及センターには歯科往診機器を配備し、必要とする歯科医師に貸し出す。 ③歯科往診を周知するための媒体(チラシ等)を作成し、地域住民、医療介護関係職への周知活動とともに、その活用を図る。また、地区内の歯科医師間で在宅医療推進に向けての連携を図るため推進会議を開催する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		1,962 (千円)	基金充当額(国費)における 公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	1,962 (千円)			
			国	1,308 (千円)			
			県	654 (千円)		民	1,308 (千円)
		その他		0 (千円)			うち受託事業等(再掲) 1,308 (千円)
備考	平成27年度:0千円、平成28年度:1,962千円						

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業						
事業名	【No.14】在宅療養者に対する歯科医療推進事業				【総事業費】 750 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	岡山大学病院						
事業の目標	在宅等で療養する重度の障がいがあり、必要性があるにも関わらず歯科健診・治療が受けられていない者に対し、岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センターと連携し、歯科治療につなげていく。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	①歯科搬送治療システム構築に向け、岡山大学病院スペシャルニーズ歯科センター内に検討班を設置する。 ②歯科搬送治療ガイドを作成し、歯科関係者のほか、教育、医療介護関係者に配付し、かつ歯科治療における問題点や課題解決のための研修会を開催する。 ③有識者を交えた推進会議を開催する。 ④歯科治療システムの構築に必要な情報収集のための調査研究を行う。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		750 (千円)	基金充当額(国費)における 公民の別	公	500 (千円)
		基金	計	750 (千円)		民	0 (千円)
			国	500 (千円)			
			県	250 (千円)			
		その他		0 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
備考							

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業						
事業名	【No.15】県民への歯と口の健康づくりの啓発と他職種との協働による在宅医療連携推進事業					【総事業費】 450 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県歯科医師会						
事業の目標	居宅療養者への口腔ケアの普及と、多職種との連携を進めるための在宅歯科医療に関する研修会を開催する。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	県民が住み慣れた居宅で歯科医療が受けられることや、口腔の健康の保持増進が健康寿命の延伸に役立つことなどの情報を県民に提供し、口腔ケアの実践などについて関係機関・団体と連携して県民公開講座を開催する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		450（千円）	基金充当額(国費)における 公民の別	公	0（千円）
		基金	計	450（千円）			
			国	300（千円）			
			県	150（千円）		民	300（千円）
		その他		0（千円）			うち受託事業等 （再掲） 0（千円）
備考							

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業						
事業名	【No.16】要介護高齢者の低栄養を防ぐための医師・歯科医師と 管理栄養士による口腔栄養関連サービスの推進					【総事業費】 7,754 千円	
事業の対象 となる医療 介護総合確 保区域	県全体						
事業の実施 主体	岡山大学病院						
事業の目標	居宅療養者が安全に食事を行うために、歯科医師と栄養士が摂食・嚥下、食形態に関する指導を行うとともに、県民に食介護の重要性を周知し、県内で今後実施していくための口腔栄養関連プログラムを構築する。 平成28年度の目標：県内2箇所で開催し、食介護の重要性の理解度を高める（H28:70%）。 平成29年度の目標：県内4箇所で開催し、食介護の重要性の理解度を高める（H29:80%）。						
事業の期間	平成27年度から平成29年度						
事業の内容	要介護者の重症化を防止するにはフレイル（虚弱）の進行予防が重要であり、予防策の一つとして栄養バランスの取れた食事の提供と、安全に食べられるための口腔機能の維持が必要である。そのためには摂食嚥下機能の低下を防止し、安全に食べられる食形態、食環境等、適切な食事内容への変更による低栄養の防止を図る必要がある。医師会、歯科医師会、栄養士会と連携して、フレイルの状態から要介護度の状態に進まないよう口腔栄養関連プログラムを作成し、地域の栄養、介護関係職だけでなく、県民を対象とする講演会を3回広域的に開催する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		7,754 （千円）	基金充当 額(国費) における 公民の別	公	5,169 （千円）
		基金	計	7,754 （千円）			
			国	5,169 （千円）			
			県	2,585 （千円）		民	0 （千円）
		その他		0 （千円）			うち受託事業等 (再掲) 0 （千円）
備考	平成27年度：1,055千円、平成28年度：3,350千円、平成29年度：3,349千円						

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業					
事業名	【No.17】早期退院・地域定着のための連携強化事業				【総事業費】	331 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	精神科病院					
事業の目標	精神科病院入院患者の早期退院や地域定着の促進など、円滑な地域生活への移行を図る。					
事業の期間	平成27年度					
事業の内容	<p>精神科病院と地域援助事業者との連携の強化、精神科病院入院患者の退院意欲の喚起を図る。</p> <p>①地域援助事業者参加促進事業 精神科病院で開催する医療保護入院者退院支援委員会等の退院促進を目的とした連携ケア会議への地域援助事業者の参加に要する経費を補助する。</p> <p>②退院環境整備事業 入院患者等の地域生活への関心を高め、退院意欲の喚起につながる取組に要する経費を補助する。</p>					
事業に要する費用の額	金額	総事業費	331 (千円)	基金充当	公	0 (千円)
		計	331 (千円)	額(国費)		
	基金	国	221 (千円)	における		
		県	110 (千円)	公民の別	民	221 (千円)
	その他		0 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
備考						

事業の区分	2. 居宅等における医療の提供に関する事業						
事業名	【No.18】糖尿病等の生活習慣病に係る医療連携体制の推進に関する事業					【総事業費】	26,212 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	糖尿病の医療連携を推進するため、保健所・市町村等の地域保健と連携しながら、地域による診療レベルの平準化や、訪問看護ステーション等と連携した在宅医療に対応できる地域医療ネットワークの整備、研修等による地域のソーシャルキャピタルの資質向上など、在宅患者に対する保健指導体制を強化していく必要がある。 総合管理医から専門治療医療機関への患者紹介数の増加（R4:3,400件）						
事業の期間	平成27年度から令和4年度						
事業の内容	糖尿病も含めた高齢者医療にも対応し得る、県内全域を俯瞰した広域的な医療連携体制構築に向けて、次の事業を実施する。 (1)総合管理医(糖尿病診療を担うかかりつけ医)の認定と、総合管理医を中心とした糖尿病医療連携体制の構築。地域自律性を確保した地域密着型医療の確立。 (2)おかやま糖尿病サポーター(糖尿病診療をサポートするメディカルスタッフ)の認定と育成。 (3)おかやまDMネットを基盤として、訪問看護ステーションとの連携、医科歯科連携、医療介護連携の推進により、在宅医療も含めた高齢者医療にも対応し得る地域医療ネットワークの構築。 (4)ICTの活用、事業ウェブサイトの診療ツール化による遠隔地での糖尿病医療の底上げ。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		26,212 （千円）	基金充当額(国費)における公民の別	公	17,475 （千円）
		基金	計	26,212 （千円）			
			国	17,475 （千円）			
			県	8,737 （千円）		民	0 （千円）
		その他	0 （千円）			うち受託事業等(再掲) 0 （千円）	
備考	平成27年度:0千円、平成28年度:0千円、平成29年度:25,600千円 平成30年度:545千円、令和4年度:67千円						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.20】地域医療対策協議会の運営				【総事業費】 549 千円		
事業の対象 となる医療 介護総合確 保区域	県全体						
事業の実施 主体	県						
事業の目標	県内における医療の確保等に関する施策について協議し、県の施策の適正実施に資する。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	<p>医療介護総合確保促進法に基づく県計画を作成、評価を行うために必要な事項について協議する。</p> <p>県内の医療関係団体、基幹病院、自治体、県民の代表等が委員となり、県内における医療及び介護を総合的に確保するために必要な事項について協議する。</p> <p><委員> 県医師会、県病院協会、県歯科医師会、県薬剤師会、県看護協会、大学その他の医療従事者の養成に関する機関、介護サービス事業者 等</p>						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		549 (千円)	基金充当 額(国費) における 公民の別	公 民	365 (千円)
		基金	計	549 (千円)			
			国	365 (千円)			
			県	184 (千円)			0 (千円)
		その他		0 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.21】医院継承バンクの設置					【総事業費】 491 千円	
事業の対象 となる医療 介護総合確 保区域	県全体						
事業の実施 主体	県医師会						
事業の目標	事業継承の問題点として、都市部病院との連携、医院の廃業予定者と新規開業予定者のマッチングの施策、取組が課題となっているため、医院等の継承と求職を希望する医師の大半が所属する県医師会にコーディネート機能を有する機関として医院継承バンクを設置し、後継者が見つからないため、やむを得ず地域の診療所等で働く高齢の医師と求職を希望する医師とのマッチングを行い、地域医療提供体制の維持を図る。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	地域医療を維持するため、中山間地域等で後継者が見つからない医療機関と、医院の開設を希望する医師を登録して、マッチングを行う。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		491 （千円）	基金充当 額(国費) における 公民の別	公	0 （千円）
		基金	計	491 （千円）			
			国	327 （千円）			
			県	164 （千円）		民	327 （千円）
		その他		0 （千円）			うち受託事業等 (再掲) 0 （千円）
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.22】産科医等育成・確保支援事業					【総事業費】 124,392 千円	
事業の対象 となる医療 介護総合確 保区域	県全体						
事業の実施 主体	医療機関						
事業の目標	地域でお産を支える産科医等に対し分娩手当等を支給することで、処遇を改善し、産科医等の確保を図るとともに、臨床研修修了後の専門的な研修において、産科を選択する医師に対し、研修医手当等を支給することにより、将来の産科医療を担う医師を育成する。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	産科医等に分娩手当を支給し、または、産科を選択する研修医に手当を支給する医療機関に補助することにより、産科医療を担う医師の確保を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		124,392（千円）	基金充当 額(国費) における 公民の別	公	2,900（千円）
		基金	計	28,065（千円）			
			国	18,710（千円）			
			県	9,355（千円）		民	15,810（千円）
		その他		96,327（千円）			うち受託事業等 （再掲） 0（千円）
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.23】救急勤務医支援事業					【総事業費】 146,617 千円	
事業の対象 となる医療 介護総合確 保区域	県全体						
事業の実施 主体	医療機関						
事業の目標	救急搬送される患者が年々増加しており、二次救急医療機関の負担が増加するとともに、搬送に係る収容平均所要時間が延伸傾向にある。このため、二次救急医療機関の患者受入体制をさらに整備するため、過酷な勤務状況で救急医療に従事する救急医等の処遇を改善し、救急勤務医の確保を図る。 平成25年中の搬送人員数及び収容平均所要時間は、79,037人、36.7分であるため、救急勤務医の確保を図ることで、収容平均所要時間を31.3分（平成20年の水準）にすることを旨とする。 平成28年度の目標：救急勤務医一人あたりの時間外救急患者件数の減少。 572.9件／人（H26）→550件／人（H28）						
事業の期間	平成27年度から平成28年度						
事業の内容	休日・夜間の当直を行う勤務医に救急勤務医手当を支給する医療機関に対して、その手当の一部を助成することにより、救急勤務医の確保を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		146,617（千円）	基金充当 額（国費） における 公民の別	公	4,887（千円）
		基金	計	18,466（千円）		民	7,423（千円）
			国	12,310（千円）			
			県	6,156（千円）			
		その他	128,151（千円）			うち受託事業等 （再掲） 0（千円）	
備考	平成27年度：10,536千円、平成28年度：7,930千円						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.24】災害時医療従事者養成確保事業					【総事業費】 3,177 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	今後、発生が予測される南海トラフや断層型の大規模地震等による災害に備えるため、災害派遣医療チーム(DMAT)等の養成研修や資質向上研修等を行い、災害時の救急医療活動を行うことができる医療従事者の確保を図る。 また、災害現場で医療機関と消防等が連携し、円滑な医療救護活動を実施できるよう、関係機関を交えた研修等を実施し、災害時の救急医療に従事する者の確保を図る。 現在のおかやまDMAT隊員は103名だが、隊員数の1.2倍を目指す。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	災害時の救急医療活動を行う医療従事者の確保・養成を行うため、下記の事業を実施する。 (1)大規模災害や事故の発生時に被災地等に急行し救急医療等を行うための訓練を受けた災害派遣医療チーム(DMAT)の養成研修を基幹災害拠点病院である岡山赤十字病院に委託をして実施する。 (2)医師会や災害拠点病院等の医療従事者が災害時の救急医療活動を行う際に共通の認識をもって行動ができるよう、災害医療コーディネート研修会等を実施する。 (3)災害現場での職種を超えた連携強化を図るため、医療機関や消防等を対象とした「多数傷病者への医療対応標準化トレーニングコース」Mass Casualty Life Support (MCLS)を行う。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		3,177 (千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	2,118 (千円)
		基金	計	3,177 (千円)			
			国	2,118 (千円)			
			県	1,059 (千円)			
		その他		0 (千円)		民	0 (千円)
						うち受託事業等(再掲) 0 (千円)	
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.25】女性医師復職支援事業					【総事業費】 1,298 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	出産や育児等により離職し、再就業に不安を抱える女性医師等に対し、再就職しやすい勤務形態や職場環境の整備を促進するため、再就職情報提供窓口を設置するとともに、仕事と家庭の両立に対する不安を解消するための支援や、病院管理者等の理解を得るための普及啓発等を行い、再就職しやすい勤務形態や職場環境の整備を促進する。 県の復職支援制度を利用して復職した女性医師数63人(平成25年度末)。 当該事業による再就職情報提供窓口を設置することにより、再就業者数累計100人を目指す。(平成27年度末)。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	女性医師等の復職を支援するため、下記の事業を実施する。 (1)相談員(コーディネーター)を1名以上配置し、復職に関わる相談窓口事業(職業紹介事業を含む)を行う。 (2)保育に関する社会資源情報の集積を行い、データベース管理を行う。 (3)女性医師等のキャリアアップ研修への参加を支援する。 (4)病院管理者等に対する普及啓発活動を2回以上行う。 (5)その他女性医師の復職支援及び離職防止に有効な事業を実施する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		1,298 (千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	1,298 (千円)		民	865 (千円)
			国	865 (千円)			
			県	433 (千円)			
		その他	0 (千円)			うち受託事業等(再掲) 865 (千円)	
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.26】新人看護職員研修事業					【総事業費】 116,982 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	医療機関						
事業の目標	新人看護職員の早期離職防止や医療安全の確保のため、自施設の新人看護職員や他施設の新人看護職員を呼び入れて、新人看護職員ガイドラインに基づいた研修を実施する医療機関を支援する。新人看護職員に適切な研修を行い、臨床実践能力の向上を図ることにより、スムーズな職場への適応を促し、離職防止を図る。 平成28年度の目標：新人看護職員を採用した病院の新人看護職員研修体制整備率の増加 (H26:86.7%→H29:100%)						
事業の期間	平成27年度から平成28年度						
事業の内容	看護職員の臨床研修等が国、病院の開設者等及び看護職員の努力義務として規定されたことに伴い、次の研修事業を行う病院に対し補助を行う。 (1)新人看護職員研修事業 新人看護職員に対し、新人看護職員研修ガイドラインに基づいた研修を実施する事業 (2)医療機関受入研修事業 他の医療機関の新人看護職員を受け入れ、新人看護職員研修ガイドラインにもとづいた研修を実施する事業						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		116,982 (千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	4,694 (千円)
		基金	計	17,419 (千円)		民	6,919 (千円)
			国	11,613 (千円)			
			県	5,806 (千円)			
		その他		99,563 (千円)			うち受託事業等(再掲) 0 (千円)
備考	平成27年度:11,416千円、平成28年度:6,003千円						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.27】実習指導者講習会					【総事業費】 1,223 千円	
事業の対象 となる医療 介護総合確 保区域	県全体						
事業の実施 主体	県						
事業の目標	看護教育内容の一つとしての臨地実習では、実習指導者養成講習会を受講した実習指導者を実習施設に配置することが必須となっている。実習指導を効果的に行うことができる実習指導者を養成するための講習会を開催する。 年間50人の実習指導者を養成し、県内の臨地実習施設に配置することで、看護教育の質を高める。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な指導ができるよう必要な知識・技術を習得させる講習会を実施する。 (1)内容：講義及び演習 (2)期間：約3ヶ月(249時間) (3)受講定員：50名 (4)受講資格：県内の看護師養成所の実習施設で実習指導の任にある者又はその予定者						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		1,223 (千円)	基金充当 額(国費) における 公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	1,223 (千円)			
			国	815 (千円)			
			県	408 (千円)		民	815 (千円)
		その他		0 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 815 (千円)
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.28】看護職員専門分野研修事業					【総事業費】 3,090 千円	
事業の対象 となる医療 介護総合確 保区域	県全体						
事業の実施 主体	認定看護師養成機関						
事業の目標	医療の高度化に対応した質の高い看護サービスを提供するため、熟練した看護技術を用いて質の高い看護を実践できる認定看護師を育成する教育機関を支援する。 H27: 糖尿病看護分野: 20人、皮膚排泄ケア分野22人 H28: 皮膚排泄ケア分野: 1人						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	医療の高度化や専門化、在宅医療の推進等に対応した質の高い看護サービスを提供するため、専門性の高い認定看護師の養成機関(岡山県立大学・山陽学園大学)を支援する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		3,090 (千円)	基金充当 額(国費) における 公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	3,090 (千円)			
			国	2,060 (千円)			
			県	1,030 (千円)		民	2,060 (千円)
		その他		0 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.29】看護教員継続研修事業					【総事業費】	
						598 千円	
事業の対象	県全体						
となる医療 介護総合確 保区域							
事業の実施 主体	県						
事業の目標	医療費の高度化、国民のニーズの多様化といった変化を踏まえ、看護教育内容の向上と看護教育の質の向上に資することを目的に、カリキュラム改正等に対応した教育についての研修や看護教員の成長段階に応じた研修を実施する。 研修参加者延べ計110人。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	看護教育の質を確保し、教育内容の向上を図るため、看護教員の成長段階（新任期、中堅期、ベテラン期）に応じた研修を実施する。 （1）内 容：講義及び演習 ：看護教育内容及び教育方法の向上に関する研修 ：看護教員の成長段階に応じた研修 （2）期 間：4日（新任期2日、中堅期・ベテラン期各1日） （3）受講定員：看護教育を行っている看護教員、各期50名						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		598（千円）	基金充当 額(国費) における 公民の別	公	0（千円）
		基金	計	598（千円）		民	398（千円）
			国	398（千円）			
			県	200（千円）			
		その他		0（千円）			うち受託事業等 （再掲） 398（千円）
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業					
事業名	【No.30】看護職員の就労環境改善事業				【総事業費】	404 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県					
事業の目標	看護職員が健康で安心して働き続けることが可能となるよう、短時間正職員制度を始めとする多様な勤務形態や看護業務の効率化などの就労環境の改善を図ることを目的として、先行事例を活用した研修を実施する。					
事業の期間	平成27年度					
事業の内容	<p>多様な勤務形態の導入により就労の継続や、再就業支援体制が強化できるよう、医療機関管理者等を対象とした先行事例を活用した研修を実施する。</p> <p>○多様な勤務形態の啓発に関する研修(基礎編)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職員の勤務の状況とその問題点 ・WLBの基本的知識・多種多様な勤務形態の考え方 ・人事労働管理の基礎知識 ・労働基準法等関係法令の基礎知識 <p>○多様な勤務形態の導入に向けた実践的な研修(実践編)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な勤務形態の導入に向けた組織体制に関すること ・自施設の現状分析に関すること ・看護業務のマネジメントの実際 ・就業規則等の規定の整備に関すること ・多様な勤務形態の運用及び運用後の評価に関すること 					
事業に要する費用の額	金額	総事業費	404 (千円)	基金充当	公	0 (千円)
		計	404 (千円)	額(国費)		
	基金	国	270 (千円)	における		
		県	134 (千円)	公民の別	民	270 (千円)
		その他	0 (千円)			うち受託事業等(再掲) 270 (千円)
備考						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.31】看護師等養成所運営費補助事業					【総事業費】 278,722 千円	
事業の対象 となる医療 介護総合確 保区域	県全体						
事業の実施 主体	看護師等養成所の開設者						
事業の目標	質の高い看護職員の確保のため、保健師助産師看護師法に基づき指定を受けた、保健師、助産師、看護師、准看護師の学校または養成所の運営に対し、補助金を交付し、看護教育の充実を図る。 各養成所が教育環境の充実に努めることにより、看護師等国家試験への合格率を高め、看護職員の確保を促進する。 平成29年度の目標：看護職員の従事者数(常勤換算)の増加(H26:26,584.8人→H29:27,219.4人) ・看護師等養成所卒業者の県内施設就業率 R2年度:59.9%(看護師等養成所運営事業計画による)⇒R4年度:65.0 %						
事業の期間	平成27年度から令和4年度						
事業の内容	看護職員確保に向け、看護教育の充実を図るため、厚生労働省の指定を受けた看護師等養成所が看護師等の養成を行う場合に、専任教員費、専任事務職員費等の経費に対して補助を行う。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		278,722 (千円)	基金充当 額(国費) における 公民の別	公	25,711 (千円)
		基金	計	278,722 (千円)			
			国	185,815 (千円)			
			県	92,907 (千円)		民	160,104 (千円)
		その他		0 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
備考	平成27年度:182,033千円、平成28年度:22,873千円、平成29年度: 73,491千円、 令和4年度:325千円						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.32】ナースセンター機能強化事業					【総事業費】 2,944 千円	
事業の対象 となる医療 介護総合確 保区域	県全体						
事業の実施 主体	県						
事業の目標	離職者の再就業の相談・支援や再就業のための技術支援講習会を県内各地に出向 き開催する。また、再就業した者に対するフォローアップ研修や、就職した者に状況確認 のため就職先を訪問し相談を行い、定着化を図る。 平成27年度ナースセンター求職登録者数延べ1500人、うち就職者数延べ285人、定着 率は、90%を目指す。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	平成26年度にスタートしたナースセンター機能強化事業を継続し、ナースセンター制度 の周知徹底を図るとともに、再就業に向けた相談業務とより実践的な再就業準備研修 等の支援業務を拡充して、県下全域に出張、出前形式で実施する。また、再就業者に 対する就職先訪問やフォローアップ研修を行い、定着率のアップを目指す。 ・相談員を1名増員し、公用車1台を借上げ、出張相談業務と再就業準備研修等の回数 を増やし、県下全域への拡充を図る。 ・再就職先への職場訪問を実施し、本人、施設責任者等との面談を通じて意見聴取を 行うとともに、フォローアップ研修を実施し、定着率のアップを目指す。						
事業に要す る費用の額	金額	総事業費		2,944 (千円)	基金充当 額(国費) における 公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	2,944 (千円)			
			国	1,963 (千円)			
			県	981 (千円)		民	1,963 (千円)
		その他		0 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 1,963 (千円)
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.33】医療勤務環境改善支援センター事業					【総事業費】 2,028 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	医療従事者の勤務環境の改善と医業収益の確保の好循環を実現させ、質の高い医療の提供を行うことが出来る状態を維持し、県民が安心して暮らせる地域を作ること为目标とする。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	各医療機関が勤務環境改善に向けた取組を開始し、PDCAサイクルを活用して効果的に進められるよう、医療勤務環境改善支援センターを設置し、経営、労務管理の両面から医療機関を支援する体制を確保する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		2,028 (千円)	基金充当額(国費)における 公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	2,028 (千円)			
			国	1,352 (千円)			
			県	676 (千円)		民	1,352 (千円)
		その他		0 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 1,352 (千円)
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.34】院内保育運営費補助事業					【総事業費】 661,880 千円	
事業の対象 となる医療 介護総合確 保区域	県全体						
事業の実施 主体	病院、診療所の開設者等						
事業の目標	医師・看護師等を確保するため、院内で保育所を運営する事業について補助し、出産や育児による医療従事者の離職防止及び再就業を促進する。医療機関の入院治療の必要はないが、安静の確保に配慮する必要がある集団保育が困難な児童の保育(病児保育)について補助する。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	医療従事者が利用する院内保育施設の運営に対して補助を行う。 また、医療機関による入院治療の必要はないが、安静の確保に配慮する必要がある集団保育が困難な児童の保育(病児等保育)についても補助を行う。 医療機関の勤務時間は、夜間・休日の勤務もあるため、これらの勤務形態に対応した保育を行う場合は、補助額の加算を行う。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		661,880 (千円)	基金充当 額(国費) における 公民の別	公	5,958 (千円)
		基金	計	81,027 (千円)			
			国	54,018 (千円)			
			県	27,009 (千円)		民	48,060 (千円)
		その他		580,853 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.35】新卒訪問看護師養成プログラム作成・定着事業					【総事業費】 5,000 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県看護協会						
事業の目標	新卒者の訪問看護師を養成・確保するため、岡山版養成プログラムを作成し、訪問看護ステーションが雇用した卒業直後の看護師に対し、養成プログラムに基づく研修を実施するとともに、学習支援者会議を開催し、2年間で自立した活動ができる人材を育成する。 新卒訪問看護師の育成：年間3人						
事業の期間	平成27年度から平成29年度						
事業の内容	新卒者の訪問看護師を養成・確保するために、岡山版養成プログラムを作成し、訪問看護ステーションが雇用した卒業直後の看護師に対し、養成プログラムに基づく研修を実施すると共に、学習支援会議を開催し、2年間で自律した活動ができる人材を育成する。 【平成27年度】岡山版養成プログラムの作成、訪問看護ステーション、教育・医療機関等への概要説明・支援体制の確立。 【平成28年度～29年度】訪問看護ステーションが雇用した、卒業直後の看護師3名に対し、養成プログラムに基づく研修等を実施し、2年間で自律した活動ができる人材を育成する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		5,000（千円）	基金充当額(国費)における公民の別	公	0（千円）
		基金	計	5,000（千円）			
			国	3,334（千円）			
			県	1,666（千円）		民	3,334（千円）
		その他		0（千円）			うち受託事業等（再掲） 0（千円）
備考	平成27年度：1,000千円、平成28年度：2,000千円、平成29年度：2,000千円						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.36】救急総合診療医師を養成するための寄附講座の設置					【総事業費】	18,624 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	川崎医科大学						
事業の目標	中山間地域では、幅広い診療分野の救急医療に対応できる医師が求められているが、こうした医師を養成するための組織的な取組は極めて不十分である。 川崎医科大学に寄附講座「救急総合診療医学講座」を開設して、指導医が県北中山間地域等に赴いて救急医療の充実を図り、救急搬送での県域内応需率を向上させる。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	1. 川崎医科大学に寄附講座「救急総合診療医学講座」を開設する。 2. 寄付講座の指導医が、週1回以上中山間地域に赴いて、当該地域で救急医療を担う医師等を対象に、OJT等による指導・助言、研修会の開催等を行う。 3. 寄付講座に、後期研修医等を対象とする「救急総合診療医養成コース」を設ける。また、川崎医科大学附属病院以外の救命救急センター等と「救急総合診療医養成プログラム」を共同で開発・運用して、救急総合診療医を養成する。 ※救急総合診療医：ER型救急、病院前診療（ドクターヘリ等）、総合診療ができる能力を有する医師						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		18,624 （千円）	基金充当額(国費)における公民の別	公	0 （千円）
		基金	計	18,624 （千円）			
			国	12,416 （千円）			
			県	6,208 （千円）		民	12,416 （千円）
		その他	0 （千円）			うち受託事業等（再掲） 0 （千円）	
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.37】小児救急医療拠点病院運営事業					【総事業費】	17,171 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	津山・英田区域、真庭区域、高梁・新見区域						
事業の実施主体	医療機関						
事業の目標	県内5圏域のうち、高梁・新見圏域及び真庭圏域では、自圏域内で小児の二次救急医療について、24時間対応できる体制を取ることが困難であるため、複数の医療圏域を対象として小児救急患者を24時間体制で受け入れる小児救急医療拠点病院を確保する。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	複数の二次医療圏域の小児の二次救急医療に24時間対応する小児救急医療拠点病院を確保できるよう、その運営を支援する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		17,171 （千円）	基金充当額(国費)における公民の別	公	0 （千円）
		基金	計	17,171 （千円）			
			国	11,448 （千円）			
			県	5,723 （千円）		民	11,448 （千円）
		その他		0 （千円）			うち受託事業等（再掲） 0 （千円）
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.38】小児救急医療支援事業					【総事業費】	5,654 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県南西部区域						
事業の実施主体	県南西部県域代表市(倉敷市)						
事業の目標	在宅当番医及び病院群輪番制病院等を支援する小児の二次救急医療体制として、二次医療圏に小児科医を夜間と休日に確保する。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	二次医療圏内の休日・夜間の小児の二次救急医療に対応するため、小児科医を確保した医療機関に補助する市町村に対して、その経費の一部の補助を行う。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		5,654 (千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	2,513 (千円)
		基金	計	3,769 (千円)		民	0 (千円)
			国	2,513 (千円)			
			県	1,256 (千円)			
		その他	1,885 (千円)		うち受託事業等(再掲)	0 (千円)	
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.39】小児救急医療電話相談事業					【総事業費】	15,042 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	誰もが安心して子どもを育てることができる社会づくりの一環として、小児救急医療に係る体制の整備を図る。						
事業の期間	平成27年度～令和2年度						
事業の内容	平日の19時から翌朝8時、土日祝・年末年始の18時から翌朝8時までの間、急に子どもが体調を崩した際のその保護者等からの電話相談に対して、医療機関受診の要否や対処法について看護師等が助言する、電話相談事業を実施する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		15,042 (千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	15,042 (千円)		民	10,028 (千円)
			国	10,028 (千円)			
			県	5,014 (千円)			
		その他	0 (千円)			うち受託事業等(再掲)	10,028 (千円)
備考	平成27年度:14,676千円、平成28年度:0千円、平成29年度:0千円、平成30年度:0千円 令和元年度:0千円、令和2年度:366千円						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.40】保健師、助産師、看護師及び准看護師養成所の設備整備事業					【総事業費】 48,602 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	看護師等養成所の開設者						
事業の目標	保健師、助産師、看護師及び准看護師の学校又は養成所を対象として、教育環境の充実を図るための設備について、必要な整備を行う。 各養成所が教育環境の充実に努めることにより、看護師等国家試験の合格率を高め、看護職員の確保を促進する。 平成28年度の目標:10施設へ補助。 平成29年度の目標:1施設へ補助。						
事業の期間	平成27年度から平成29年度						
事業の内容	養成所の教育環境を改善するために必要な設備整備について補助する。						
事業に要する費用の額 費用の額	金額	総事業費		48,602 (千円)	基金充当額(国費)における 公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	24,301 (千円)			
			国	16,201 (千円)			
			県	8,100 (千円)		民	16,201 (千円)
		その他		24,301 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
備考	平成27年度:3,659千円、平成28年度:14,016千円、平成29年度:6,626千円						

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.41】新生児医療担当医確保支援事業					【総事業費】 0 千円	
事業の対象 となる医療 介護総合確 保区域	県全体						
事業の実施 主体	医療機関						
事業の目標	周産期医療体制を安定的に維持するために、新生児医療担当医の処遇を改善し、その確保を図る。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	新生児医療担当医に対し、手当を支給する医療機関に補助をすることにより、新生児医療担当医師の確保を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		0 (千円)	基金充当 額(国費) における 公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	0 (千円)		民	うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
			国	0 (千円)			
			県	0 (千円)			
		その他		0 (千円)			
備考							

事業の区分	4. 医療従事者の確保に関する事業						
事業名	【No.42】女性医師等就労環境改善事業					【総事業費】 8,600 千円	
事業の対象 となる医療 介護総合確 保区域	県全体						
事業の実施 主体	医療機関						
事業の目標	女性医師等の就労を支援するため、子育て中の女性医師等が働きやすい短時間正規雇用制度や常勤であっても当直を免除する制度を導入し、勤務条件を緩和する取り組みを行う医療機関に対し、運営費の一部を補助する。 本県の女性医師の割合は約18%であり、出産や育児等により離職した女性医師は再就業に不安を抱えていたり、仕事と家庭との両立が難しい環境にある。 育児を行う女性医師等が再就職や、仕事と家庭との両立をしやすい職場環境をつくる。						
事業の期間	平成27年度						
事業の内容	女性医師等の就労を支援するため、子育て中の女性医師等が働きやすい短時間正規雇用制度や常勤であっても当直を免除する制度を導入し、勤務条件を緩和する取り組みを行う医療機関に対し、運営費の一部を補助する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		8,600 (千円)	基金充当 額(国費) における 公民の別	公	0 (千円)
		基金	計	4,300 (千円)			
			国	2,866 (千円)			
			県	1,434 (千円)		民	2,866 (千円)
		その他		4,300 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
備考							

事業の区分	1-1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業					
事業名	No. 43 (医療分) 医療介護連携体制整備事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 22,000 千円	
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県医師会					
事業の期間	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日					
背景にある医療・介護 ニーズ	<p>今後の更なる高齢化に対応し、良質で適切な医療・介護サービスを効果的かつ効率的に提供するためには、地域医療構想による医療機能の分化・連携、中でも慢性期機能を担う入院医療から在宅医療への移行と、地域包括ケアシステムによる在宅医療・介護サービス提供体制の充実を一体的に図ることが不可欠である。この実現に向けては、関係者が医療・介護サービスを取り巻く環境の変化やそれぞれの地域特性を踏まえた現状分析を基に検討・推進することが必要である。</p> <p>アウトカム指標： 高度急性期・急性期病床から回復期病床への移行 ・回復期病床の必要病床数と許可病床数の差20%（約720床）の解消 回復期病床：2,904床（H29.4.1）→ 3,624床（R7） ・慢性期の病床から在宅医療への移行促進（慢性期病床の約10%（160床）の削減） 慢性期病床：5,944床（H29.4.1）→ 5,784床（R7）</p>					
事業の内容	(1) 岡山県医師会地域医療構想・地域包括ケア研究会開催 ・有識者（アドバイザー）による講演会 ・データに基づいた政策議論の展開等 (2) 地域包括ケアコーディネーターの配置 ・医療介護の連携強化、郡市医師会・市町村への支援（訪問診療普及、病診連携調整等） (3) 郡市等医師会における在宅医療介護連携事業やかかりつけ医機能強化への支援 (4) 医療圏ごとに医療介護連携の進捗状況に適した事業の展開（多職種連携交流会、地域協働事業等） (5) 急性期から在宅医療までの医療機能ごとの現状と課題を可視化するための取組等					
アウトプット指標	・岡山県医師会地域医療構想・包括ケアシステム研究会参加人数：50名 ・それぞれの地域に応じた医療介護連携体制整備事業を行った郡市医師会数：3 地区医師会					
アウトカムとアウト プットの関連	県全体または医療圏ごとの現状分析や議論の実施・発信や研修会等により、各地域の実情や必要性に応じた医療機能の整理・統合・提供や連携体制の強化を図る。					
地域医療構想の関係性 及びスケジュール						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	22,000 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
		基金 国 (A)	14,667 (千円)		民	14,667 (千円)
		都道府県 (B)	7,333 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	22,000 (千円)			0 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考						

事業の区分	1-1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業							
事業名	No. 44 (医療分) 医療介護多職種連携体制整備事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 3,250 千円			
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	県全体							
事業の実施主体	県							
事業の期間	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日							
背景にある医療・介護 ニーズ	<p>本県の慢性期の許可病床は、平成29年4月時点で令和7年の必要病床数に比べて多い状況であり、機能分化・連携を進めていくため、入院から在宅療養・施設入所等への円滑な移行を促進する必要がある。そのため、入退院支援を行う医療・介護の専門職の連携を図り、退院時カンファレンスの充実や入退院支援ルール等の情報収集・情報発信を行うとともに、医療機関側から在宅医療側に患者を円滑につなぐための体制整備を推進する必要がある。</p> <p>アウトカム指標： 慢性期病床を許可病床数（H29.4）と必要病床数（R7）との差の0.8%削減 （R6目標削減数：約17床）</p>							
事業の内容	<p>(1) 入退院支援推進のための取組 医療・介護・行政を含む多職種によるワーキンググループ等により、入退院支援に関する現状の情報収集、課題及び解決策（仕組みづくり）の検討 等</p> <p>(2) 医療介護連携推進における関係機関からの相談支援 各地域の実情に応じて、介護支援専門員が助言・調整などにより、入退院支援に関する連携を促進</p> <p>(3) 医療側と介護側の専門職の相互理解・連携を図るための取組 医療・介護に関する多職種連携のための研修、「多職種連携のための入退院支援ブック」の啓発等</p>							
アウトプット指標	<p>・入退院支援推進のための会議開催回数：6回</p> <p>・医療と介護側の相互理解・連携を図るための研修参加人数：延べ150名</p>							
アウトカムとアウト プットの関連	<p>医療・介護の多職種連携研修会を開催することにより、関係者間の顔の見える関係が構築され、医療介護連携が強化される。医療機関側から在宅医療側に患者を円滑につなぐための体制が整備され、円滑な入退院支援につながり、慢性期病床の削減が図られる。</p>							
地域医療構想の関係性 及びスケジュール								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	3,250 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公 民	0 (千円)		
		基金 国 (A)	2,167 (千円)			2,167 (千円)		
		都道府県 (B)	1,083 (千円)			うち受託事業等 (再掲)		
		計 (A+B)	3,250 (千円)			2,167 (千円)		
		その他 (C)	0 (千円)					
備考								

事業の区分	1-1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業					
事業名	No. 45 (医療分) 地域連携・多職種協働周術期管理モデル普及事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 15,000 千円	
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県					
事業の期間	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日					
背景にある医療・介護 ニーズ	<p>超高齢社会では手術を契機にフレイルから要介護状態へ移行する患者の増加が危惧されるため、術後患者の予後を追跡・分析して病床数の適正化につなげるとともに、術後疼痛管理や栄養指導など、生活の質の改善を目指した周術期管理モデルの普及により医療提供体制の効率的運用と医療コストの削減を図る必要がある。</p> <p>アウトカム指標： 急性期病床の削減（余剰病床数2,470 床の55%以上改善） 急性期からの転換等による回復期病床適正数の確保（不足病床数3,578 床の50%以上改善）（目標年度：R6）</p>					
事業の内容	<p>質の高い周術期管理によって術後長期のQOLを維持させるため、主に県内医療機関、患者を対象に以下の事業を実施する。</p> <p>(1) 退院前栄養指導、重症患者術後外来などQOL維持につながる周術期管理の実施 (2) 術後疼痛管理方法の向上のための人材育成および知見の普及 (3) 周術期薬剤管理をになう人材育成、知見の普及</p>					
アウトプット指標	<p>(1) 地域基幹病院でのモデル事業実施：1 医療機関 (2) 研修参加者数：50 名、見学・人事交流：10 名</p>					
アウトカムとアウト プットの関連	連携モデル事業を実施することで医療提供体制の効果的運用を図る。また、周術期管理を担う人材育成のための研修会等を多職種を対象に実施することにより病床の機能分化や連携を支援する体制が構築される。					
地域医療構想の関係性 及びスケジュール						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	15,000 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	10,000 (千円)
		基金 国 (A)	10,000 (千円)		民	0 (千円)
		都道府県 (B)	5,000 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	15,000 (千円)			0 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考						

事業の区分	1-1. 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業							
事業名	No. 46 (医療分) ICTを活用した岡山県循環器病対策のための医療連携ネットワークの構築				【総事業費 (計画期間の総額)】 42,672 千円			
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	県全体							
事業の実施主体	医療機関							
事業の期間	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日							
背景にある医療・介護 ニーズ	<p>地域医療構想による医療機能の分化・連携を円滑に進め、各医療機能に応じて必要な医療資源を適切に投入し、入院医療全体の強化を図るため、脳卒中や心血管疾患などの循環器病の急性期診療においては、地域における複数の医療機関が連携して24時間体制での対応が求められる。そのため、患者の診断を迅速かつ正確に行うための連携体制の構築や、発症から超早期に専門的治療を開始する体制整備及び救急搬送体制の充実を図る必要がある。</p> <p>ICTの導入により、これらの体制整備を進めることで、超急性期の専門的治療の件数が増加し、患者の予後状況が改善される。それにより、患者の急性期の入院日数が減少することで、急性期病床の削減につながり、将来的に医療機能の分化・連携を進めることができる。</p> <p>アウトカム指標： 脳梗塞の新規入院患者のうち、t-PA療法を実施した件数 263件 (R4) → 288件 (R6)</p>							
事業の内容	県内で循環器病の急性期機能を有する医療機関に、患者情報及び医用画像の共有が可能な医療関係者間コミュニケーションアプリを導入し、緊急症例時に各施設の情報共有が可能なネットワークの構築を行う。							
アウトプット指標	医療関係者間コミュニケーションアプリの導入：8 医療機関							
アウトカムとアウト プットの関連	アプリ導入により、患者の診断を迅速かつ正確に行うための連携体制の構築を図ることで、発症から超早期に専門的治療を開始する体制を整備することに繋がる。							
地域医療構想の関係性 及びスケジュール								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	42,672 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)		
	基金	国 (A)	14,224 (千円)		民	14,224 (千円)		
		都道府県 (B)	7,112 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)		
		計 (A+B)	21,336 (千円)					
		その他 (C)	21,336 (千円)					
備考								

3. 計画に基づき実施する事業

(事業区分3:介護施設等の整備に関する事業)

(1) 事業の内容等

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業																												
事業名	【No. 19】	岡山県介護施設等整備事業		【総事業費】 2,535,851 千円																									
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体																												
事業の実施主体	介護施設・事業所																												
事業の目標	地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域密着型サービス施設の整備等を支援することにより、地域の実情に応じた介護サービス提供体制の整備を促進する。 地域密着型特別養護老人ホーム 8カ所新設整備 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 3カ所新設整備 小規模多機能型居宅介護 7カ所新設整備 認知症高齢者グループホーム 12カ所新設整備 看護小規模多機能型居宅介護事業所 5カ所新設整備 訪問看護ステーション(サテライト) 1カ所新設整備																												
事業の期間	平成27年度から令和5年度																												
事業の内容	○地域密着型サービス施設等の整備等に対する補助 <table><tr><td>施設種別</td><td>施設数</td><td>定員数</td></tr><tr><td>地域密着型特別養護老人ホーム</td><td>8</td><td>232</td></tr><tr><td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護</td><td>3</td><td>—</td></tr><tr><td>小規模多機能型居宅介護事業所</td><td>7</td><td>(宿泊定員)101</td></tr><tr><td>認知症高齢者グループホーム</td><td>12</td><td>144</td></tr><tr><td>看護小規模多機能型居宅介護事業所</td><td>5</td><td>(宿泊定員)45</td></tr><tr><td>訪問看護ステーション(サテライト)</td><td>1</td><td>—</td></tr><tr><td>その他(施設開設準備経費補助等)</td><td>—</td><td>390</td></tr></table>					施設種別	施設数	定員数	地域密着型特別養護老人ホーム	8	232	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	—	小規模多機能型居宅介護事業所	7	(宿泊定員)101	認知症高齢者グループホーム	12	144	看護小規模多機能型居宅介護事業所	5	(宿泊定員)45	訪問看護ステーション(サテライト)	1	—	その他(施設開設準備経費補助等)	—	390
施設種別	施設数	定員数																											
地域密着型特別養護老人ホーム	8	232																											
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3	—																											
小規模多機能型居宅介護事業所	7	(宿泊定員)101																											
認知症高齢者グループホーム	12	144																											
看護小規模多機能型居宅介護事業所	5	(宿泊定員)45																											
訪問看護ステーション(サテライト)	1	—																											
その他(施設開設準備経費補助等)	—	390																											
事業に要する費用の額	事業内容	総事業費 (A+B+C) (注1)	基 金		その他 (C) (注2)																								
			国(A)	県(B)																									
	①地域密着型サービス施設等の整備	1,938,158 (千円)	1,292,105 (千円)	646,053 (千円)	0 (千円)																								
	②施設等の開設・設置に必要な準備経費	597,693 (千円)	398,462 (千円)	199,231 (千円)	0 (千円)																								
	③介護保険施設等の整備に必要な定期借地権設定のための一時金	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)																								
	④介護サービスの改善を図るための既存施設等の改修	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)																								
	金額 総事業費 (A+B+C)	2,535,851 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)																								
	基金 国(A)	1,690,566 (千円)		民	1,690,566 (千円) うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)																								
	県(B)	845,285 (千円)																											
	計(A+B)	2,535,851 (千円)																											
	その他(C)	0 (千円)																											
備考	平成27年度 154,229千円 平成28年度 159,776千円 平成29年度 0千円 平成30年度 0千円 平成31年度 637,143千円	令和2年度 534,583千円 令和3年度 418,100千円 令和4年度以降 632,020千円																											

H27補正分（地域介護対策支援臨時特例交付金）での基金造成額	事業内容	基金（地域介護対策支援臨時特例交付金分）				
		国 (A)	県 (B)	合計 (A+B)	H27年度事業への充当額(C)	残額 (D)
	①地域密着型サービス施設等の整備(注1)	(千円) 1,158,653	(千円) 579,327	(千円) 1,737,980	(千円) 0	(千円) 1,737,980
	②施設等の開設・設置に必要な準備経費	(千円) 322,577	(千円) 161,289	(千円) 483,866	(千円) 0	(千円) 483,866
	③介護保険施設等の整備に必要な定期借地権設定のための一時金	(千円) 0	(千円) 0	(千円) 0	(千円) 0	(千円) 0
	金額合計	(千円) 1,481,230	(千円) 740,616	(千円) 2,221,846	(千円) 0	(千円) 2,221,846

(注1)「介護施設等の合築等」及び「空き家を活用した整備」を含む。

(注2)事業主体は公であるが、公からの委託などにより実質的に民間が事業を行っている場合は、当該受託額等を「民」に計上するとともに、「うち受託事業等」に再掲すること。

(注1)(注3)は記載を省略

3. 計画に基づき実施する事業

(事業区分5:介護従事者の確保に関する事業)

(1) 事業の内容等

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 基本整備					
	(中項目) 基盤整備					
	(小項目) 介護人材確保対策連携強化事業 (協議会設置等)					
事業名	【No. 43】 福祉・介護人材確保対策推進協議会運営事業				【総事業費】	6,909 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県					
事業の目標	関係する全ての団体が自覚を持って、主体的に事業に取り組むこと。					
事業の期間	平成27年度から平成28年度					
事業の内容	福祉・介護人材の確保と定着に関わる関係機関や団体を集めた福祉・介護人材確保対策推進協議会を開催し、各団体の役割分担を明確にした上で、効率的かつ効果的な人材確保対策を検討・展開していく。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	6,909 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	4,606 (千円)		民	4,606 (千円)
		県 (B)	2,303 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	6,909 (千円)			4,606 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 3,386千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 1,220千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 基本整備 (中項目) 基盤整備 (小項目) 人材育成等に取り組む事業所の認証評価制度実施事業					
事業名	【No. 44】 福祉・介護人材育成事業所表彰事業				【総事業費】 0 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県					
事業の目標	表彰事業所 5 事業所～10 事業所程度					
事業の期間	平成27年度から平成28年度					
事業の内容	離職率の減少に努め、人材育成に取り組んでいる事業所を表彰し発表するほか、表彰マーク等を就職フェア等で活用してもらう。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	0 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	0 (千円)		民	0 (千円)
		県 (B)	0 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	0 (千円)			0 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野の拡大」 (小項目) 地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進事業						
事業名	【No. 45】 福祉・介護の仕事出前講座開催事業					【総事業費】 226 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	出前講座 20回開催						
事業の期間	平成27年度から平成28年度						
事業の内容	実際に介護の現場で働いている職員を講師として県内中学校・高校等に派遣し、授業の一環として、介護の仕事内容や魅力について伝え、簡単な介護体験等を行うことで、介護の仕事への理解を深める出前講座を開催する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		226 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	151 (千円)
		基金	国 (A)	151 (千円)		民	0 (千円)
			県 (B)	75 (千円)		うち受託事業等 (再掲)	
			計 (A+B)	226 (千円)			
			その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 151千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野の拡大」 (小項目) 地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進事業						
事業名	【No. 46】 福祉・介護人材参入促進事業					【総事業費】 26,818 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	介護福祉士養成施設、職能団体等						
事業の目標	セミナー 50回開催						
事業の期間	平成27年度から平成28年度						
事業の内容	介護福祉士養成施設が高等学校等を訪問し、福祉・介護の仕事の魅力を紹介したり、進路相談等に応じるほか、職能団体・養成施設等が、地域住民等に対し、福祉・介護の仕事への参画を勧めたり、介護技術の紹介等を通じて介護への理解を求めるセミナー等を開催する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		26,818 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
		基金	国 (A)	17,879 (千円)		民	17,879 (千円)
			県 (B)	8,939 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
			計 (A+B)	26,818 (千円)			
			その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 10,972千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 6,907千円						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野の拡大」 (小項目) 地域住民や学校の生徒に対する介護や介護の仕事の理解促進事業					
事業名	【No. 47】 「介護の日」啓発イベント支援事業				【総事業費】 2,000 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	一般社団法人岡山県介護福祉士会					
事業の目標	参加者数 500人					
事業の期間	平成27年度					
事業の内容	11月11日の介護の日に当たり、介護に携わる人、介護サービスの利用者及びその家族をはじめ、広く県民に対し介護の仕事やサービス内容について周知する介護フェアを開催する。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	2,000 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	1,333 (千円)		民	1,333 (千円)
		県 (B)	667 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	2,000 (千円)			0 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野の拡大」 (小項目) 若者・女性・高齢者など多様な世代を対象とした介護の職場体験事業						
事業名	【No. 48】 福祉・介護職場体験事業					【総事業費】 413 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県、介護施設・事業所						
事業の目標	職場体験者数 300人 (100人×3年)						
事業の期間	平成27年度から令和2年度						
事業の内容	求職者や学生、地域の住民等を対象に、各事業所で3日～10日程度職場体験を受け入れる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)		413 (千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	0 (千円)
		基金	国(A)	275 (千円)		民	275 (千円)
			県(B)	138 (千円)			うち受託事業等(再掲) 0 (千円)
			計(A+B)	413 (千円)			
			その他(C)	0 (千円)			
		備考	(当初分) 平成27年度基金所用見込み額(国費) : 275千円 平成28年度基金所用見込み額(国費) : 0千円 (補正分) 平成27年度基金所用見込み額(国費) : 0千円 平成28年度以降基金所用見込み額(国費) : 0千円				

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野の拡大」 (小項目) 若者・女性・高齢者など多様な世代を対象とした介護の職場体験事業					
事業名	【No. 49】 高齢者雇用促進事業				【総事業費】 1,296 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	一般社団法人岡山県老人保健施設協会					
事業の目標	高齢者30人が有償ボランティアとして介護職場を体験する。この中から10人が介護業務実習を体験する。最終的には5人が介護従事者として就労することを目指す。					
事業の期間	平成27年度から平成28年度					
事業の内容	地域の元気な高齢者に介護の職場を体験してもらい、就労実現につなげる事業を実施する。 ① 地域のシルバー人材センター等と連携し、まずは有償ボランティアとして掃除やベッドメイキング等の介護周辺業務に従事してもらいながら、介護の仕事を実際に目で見て理解してもらう。 ② 希望者には介護業務実習を受けてもらう。 ③ 実習合格となった方を介護職員として実習受入施設で雇用する。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	1,296 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	864 (千円)		民	864 (千円)
		県 (B)	432 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	1,296 (千円)			0 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 864千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層(若者・女性・高齢者)に応じたマッチング機能強化事業					
事業名	【No. 50】 福祉・介護人材マッチング機能強化事業				【総事業費】 8,200 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県					
事業の目標	マッチングによる雇用創出数 50人 職場見学ツアー参加者数 80人					
事業の期間	平成27年度					
事業の内容	福祉人材センターにキャリア支援専門員を増員(1人→2人)し、求職者に対してはきめ細やかな求職相談、就職後のフォローアップ等を実施し、求人事業所に対しては求人条件の改善指導等を行う。また、新規人材参入の一環として、職場見学ツアーを開催する。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)	8,200(千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	0(千円)
	基金	国(A)	5,467(千円)		民	5,467(千円)
		県(B)	2,733(千円)			うち受託事業等(再掲)
		計(A+B)	8,200(千円)			5,467(千円)
		その他(C)	0(千円)			
備考						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業					
事業名	【No. 51】 介護支援専門員研修事業				【総事業費】 20,997 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県					
事業の目標	各研修の修了者 ①実務従事者基礎研修 200人 ④実務研修 536人 ②専門研修Ⅰ 150人 ⑤更新研修（実務未経験者） 323人 専門研修Ⅱ 139人 ⑥再研修 105人 ③更新研修（実務経験者） 550人 ⑦主任介護支援専門員研修 127人					
事業の期間	平成27年度から平成28年度					
事業の内容	介護支援専門員に関する次の研修を実施する。 ①実務従事者基礎研修…実務就業後1年未満の介護支援専門員を対象 ②専門研修…一定以上の実務経験を有する現任の介護支援専門員を対象 ③更新研修（実務経験者）…介護支援専門員証の有効期間を更新するための研修 ④実務研修…介護支援専門員実務研修受講試験の合格者を対象 ⑤更新研修（実務未経験者）…介護支援専門員証の有効期間を更新するための研修 ⑥再研修…介護支援専門員の有効期間が満了した介護支援専門員等を対象 ⑦主任介護支援専門員研修…他の介護支援専門員に適切な指導・助言等を行うことができる主任介護支援専門員を養成					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	20,997 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	22 (千円)
	基金	国 (A)	13,999 (千円)		民	13,977 (千円)
		県 (B)	6,998 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	20,997 (千円)			13,977 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額（国費）：8,704千円 平成28年度基金所用見込み額（国費）：5,295千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業					
事業名	【No. 52】 喀痰吸引等の実施のための研修事業				【総事業費】 2,512 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県					
事業の目標	①喀痰吸引指導者研修事業 研修受講人数 100人 実施回数 1回 実施箇所数 2カ所 ②喀痰吸引等研修事業（特定の者対象） 研修受講人数 15人 実施回数 1回 実施箇所数 1カ所					
事業の期間	平成27年度から平成28年度					
事業の内容	介護職員が喀痰吸引等の医行為を行うことができるようにするため、次の研修を実施する。 ①喀痰吸引指導者研修事業 介護職員に対してたんの吸引等について指導する看護師等を養成する。 ②喀痰吸引等研修事業（特定の者対象） 適切にたんの吸引等の医療的ケアを行うことができる介護職員等を養成する。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		2,512 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公 98 (千円)
	基金	国 (A)	1,647 (千円)			民 1,549 (千円)
		県 (B)	824 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 1,549 (千円)
		計 (A+B)	2,471 (千円)			
		その他 (C)	41 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額（国費）：1,647千円 平成28年度基金所用見込み額（国費）：0千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業							
事業名	【No. 53】 キャリア形成訪問指導事業					【総事業費】 40,067 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体							
事業の実施主体	介護福祉士養成施設、職能団体等							
事業の目標	事業所訪問数 250事業所 研修受講者数 6,000人							
事業の期間	平成27年度から平成28年度							
事業の内容	介護福祉士養成施設の教員や職能団体会員等が講師として、特に小規模な介護事業所を訪問し研修を行うほか、会場を借り上げての研修を行う。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		40,067 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)	
		基金	国 (A)			26,711 (千円)	民	26,711 (千円)
			県 (B)			13,356 (千円)		うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
			計 (A+B)			40,067 (千円)		
			その他 (C)			0 (千円)		
		備考						
平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 15,798千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 10,913千円								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業						
事業名	【No. 54】 福祉・介護職員合同入職式開催事業					【総事業費】 680 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	新人職員参加者数 200人 先輩職員参加者数 20人						
事業の期間	平成27年度から平成28年度						
事業の内容	福祉・介護職の新人職員を集めた合同入職式を開催し、社会人としての自覚を持ってもらうほか、研修を行い連携を深めてもらう。また、先輩職員にも参加を呼びかけ、新人職員との接し方に関する研修を行う。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		680 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	453 (千円)
		基金	国 (A)	453 (千円)		民	0 (千円)
			県 (B)	227 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
			計 (A+B)	680 (千円)			
			その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 453千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業					
事業名	【No. 55】 若手職員実践事例発表表彰事業				【総事業費】 0 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県					
事業の目標	発表事例数 10 事例					
事業の期間	平成27年度から平成28年度					
事業の内容	福祉・介護の現場で働く若手職員から、日頃の業務の中で効果的であった認知症ケアや介護予防等の実践的な取組を募集し、岡山県保健福祉学会の中で発表・表彰する。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	0 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	0 (千円)		民	(千円)
		県 (B)	0 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	0 (千円)			0 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業					
事業名	【No. 56】 介護支援専門員の資質向上事業				【総事業費】 0 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	特定非営利活動法人岡山県介護支援専門員協会					
事業の目標	研修テキストの作成、編集					
事業の期間	平成27年度から平成28年度					
事業の内容	介護支援専門員の統一的な研修指導を行うため、県内統一の「介護支援専門員専門テキスト&事例集」を作成する。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	0 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	0 (千円)		民	0 (千円)
		県 (B)	0 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	0 (千円)			0 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) 潜在有資格者の再就業促進 (小項目) 潜在介護福祉士の再就業促進事業						
事業名	【No. 57】 潜在的有資格者等再就業促進事業					【総事業費】 18,968 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	セミナー受講者数 200人 うち就職者数 40人						
事業の期間	平成27年度から平成28年度						
事業の内容	潜在的有資格者や他分野からの離職者に対して、円滑な再就業を支援するため、再就職支援セミナーを開催するとともに、個別の就職相談に応じ、介護事業所への就業を支援する。また、子育てから復帰した介護職員の体験談などを掲載したパンフレットを作成し、各事業所の介護職員一人ひとりに広告塔として潜在的有資格者等に配布してもらう。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		18,968 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
		基金	国 (A)	12,646 (千円)		民	12,646 (千円)
			県 (B)	6,322 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
			計 (A+B)	18,968 (千円)			12,646 (千円)
			その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 8,340千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 4,306千円						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業						
事業名	【No. 58】 認知症介護実践者等養成事業					【総事業費】 2,155 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県、指定都市						
事業の目標	①開設者研修 研修受講人数 30人、実施回数1回 ②管理者研修 研修受講人数225人、実施回数3回 ③計画作成担当者研修 研修受講人数 50人、実施回数1回 ④フォローアップ研修 研修受講人数 3人、研修実施施設への派遣						
事業の期間	平成27年度から平成28年度						
事業の内容	認知症介護従事者の資質向上を図るため、次の研修を実施する。 ①認知症対応型サービス事業開設者研修 ②認知症対応型サービス事業管理者研修 ③小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 ④認知症介護指導者フォローアップ研修						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	2,155 (千円)		基金充当額 (国費) における 公民の別	公	5 (千円)
	基金	国 (A)	1,410 (千円)			民	1,405 (千円)
		県 (B)	705 (千円)				うち受託事業等 (再掲) 1,327 (千円)
		計 (A+B)	2,115 (千円)				
		その他 (C)	40 (千円)				
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 1,410千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 （大項目）資質の向上 （中項目）地域包括ケア構築のための広域的人材養成 （小項目）認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業					
事業名	【No. 59】 認知症地域医療支援事業				【総事業費】 3,921 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県、指定都市					
事業の目標	①認知症サポート医養成研修 養成者数 14人、研修への派遣 ②かかりつけ医認知症対応力向上研修 修了者数140人、実施回数3回 ③病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修 修了者数400人、実施回数4回					
事業の期間	平成27年度から平成28年度					
事業の内容	医師等の医療従事者に対して、認知症に関する研修を実施する。 ①認知症サポート医養成研修 ②かかりつけ医認知症対応力向上研修 ③病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修					
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)	3,921(千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	0(千円)
	基金	国(A)	2,614(千円)		民	2,614(千円)
		県(B)	1,307(千円)			うち受託事業等(再掲)
		計(A+B)	3,921(千円)			2,614(千円)
		その他(C)	0(千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額(国費) : 2,614千円 平成28年度基金所用見込み額(国費) : 0千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業						
事業名	【No. 60】 認知症地域支援推進員研修事業				【総事業費】 2,090 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	認知症地域支援推進員研修 研修受講人数 85人						
事業の期間	平成27年度から平成28年度						
事業の内容	医療・介護等の連携のコーディネーター役として市町村が配置する認知症地域支援推進員の資質向上を図るため、その活動方法等についての研修を実施する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		2,090 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
		基金	国 (A)	1,393 (千円)		民	1,393 (千円)
			県 (B)	697 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 1,393 (千円)
			計 (A+B)	2,090 (千円)			
			その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 1,393千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業						
事業名	【No. 61】 認知症初期集中支援チーム員研修事業					【総事業費】 689 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	認知症初期集中支援チーム員研修 研修受講人数 83人						
事業の期間	平成27年度から平成28年度						
事業の内容	複数の専門職による訪問支援を行う認知症初期集中支援チームのチーム員となる者に対し、その活動に必要な知識・技術を習得するための研修を実施する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		689 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	6 (千円)
		基金	国 (A)	459 (千円)		民	453 (千円)
			県 (B)	230 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 453 (千円)
			計 (A+B)	689 (千円)			
			その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 459千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築に資する人材育成・資質向上事業					
事業名	【No. 62】 地域資源開発・地域づくり推進事業				【総事業費】 551 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県					
事業の目標	①地域包括支援センターのマネジメント力向上 研修対象者数：61センター×3人＝183人 地域づくりアドバイザー数：14人程度（定年退職保健師等の活用） 日常生活圏域141圏域をカバー（10圏域に1人） ②生活支援コーディネーターの養成 年間50人程度 （地域づくりに高い関心と意欲のある者を公募選考し、修了者を県が認証） ※3年間で150人程度養成し、平成29年度中に各日常生活圏域に1人配置					
事業の期間	平成27年度～平成28年度					
事業の内容	新総合事業における多様な担い手を増やすための体制を整備する。 ①地域包括支援センターのマネジメント力向上 地域包括支援センターに対する地域づくりに必要なマネジメント力向上研修や地域づくりアドバイザーの派遣 ②生活支援コーディネーターの養成 資源開発やニーズとサービスのマッチングを行うコーディネーターの養成					
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)	551 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公 民	367 (千円) 0 (千円) うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
		基金	国(A)	367 (千円)		
			県(B)	184 (千円)		
			計(A+B)	551 (千円)		
		その他(C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額（国費）： 367千円 平成28年度基金所用見込み額（国費）： 0千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築に資する人材育成・資質向上事業					
事業名	【No. 63】 訪問介護員資質向上のための研修事業				【総事業費】	1,613 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	公益社団法人岡山県栄養士会					
事業の目標	訪問介護対象者の病態を理解し、病態や症状に合わせた食事の提供ができる訪問介護員の養成（受講者数100人） 訪問対象者のQOLの向上につながるためのサポート体制づくり及び強化					
事業の期間	平成27年度から平成28年度					
事業の内容	訪問介護員の資質向上のため、糖尿病等配慮が必要な方の食事・調理に関する研修等を実施する。 ①訪問介護員に対して現場での対応が求められている「病態や症状に合わせた食事提供」のための講義、調理実習の実施 ②サポート体制づくり（対象者の食事づくりに関する困り事の相談に対応）					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	1,613 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	1,075 (千円)		民	1,075 (千円)
		県 (B)	538 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	1,613 (千円)			0 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額（国費）：1,075千円 平成28年度基金所用見込み額（国費）：0千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 権利擁護人材育成事業					
事業名	【No. 64】 市民後見推進事業				【総事業費】 10,945 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県、市町村					
事業の目標	市民後見人養成研修の受講者 125人					
事業の期間	平成27年度から令和2年度					
事業の内容	市民後見人養成のための研修の実施など、市町村において市民後見人を確保できる体制を整備・強化し、地域における市民後見人の活動を推進する事業を実施する。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	10,945 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	5 (千円)
	基金	国 (A)	7,297 (千円)		民	7,292 (千円)
		県 (B)	3,648 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	10,945 (千円)			7,292 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考	(当初分) 平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 7,297千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円 (補正分) 平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円 平成28年度以降基金所用見込み額 (国費) : 0千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 介護予防の推進に資するOT, PT, ST指導者育成事業					
事業名	【No. 65】 地域リハビリテーションリーダー育成・広域派遣事業				【総事業費】 900 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県					
事業の目標	(1) 地域リハビリテーションリーダーの養成数 OT/PT/ST各1人×5圏域(老人福祉圏域) = 15人/年 (3年間で45人) (2) リハ職団体の会員派遣数 年間300人程度を派遣					
事業の期間	平成27年度から平成28年度					
事業の内容	作業療法士・理学療法士等のリハ職団体が、市町村の求めに応じて、会員を市町村事業に派遣するに当たり、市町村事業に求められる人材を送り出すための人材教育や派遣調整等の中核的な役割を担うリーダーを育成する事業等を実施する。 ①中核的な役割を担うリーダーの育成 ②会員のOJT(市町村事業の導入研修、フォローアップ研修等) ③会員の派遣調整					
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)	900(千円)	基金充当額(国費)における公民の別	公	0(千円)
	基金	国(A)	600(千円)		民	600(千円)
		県(B)	300(千円)			うち受託事業等(再掲)
		計(A+B)	900(千円)			600(千円)
		その他(C)	0(千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額(国費) : 600千円 平成28年度基金所用見込み額(国費) : 0千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業					
事業名	【No. 66】 働きやすい職場づくり相談支援事業				【総事業費】 3,816 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県					
事業の目標	出張相談・出前講座回数 60回 仕事の悩み相談 30回					
事業の期間	平成27年度から平成28年度					
事業の内容	社会保険労務士等により労働管理等の出張相談・出前講座を行うほか、労働者からの仕事の悩み相談に応じる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	3,816 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	2,544 (千円)		民	2,544 (千円)
		県 (B)	1,272 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	3,816 (千円)			
		その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 1,544千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 1,000千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業					
事業名	【No. 67】 職員に優しい、やる気の出る介護現場づくりモデル事業				【総事業費】 6,629 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	介護施設・事業所					
事業の目標	介護職員の離職率を低減させる。 岡山県の現状 17.8% → 目標 16.6% (全国値並に低減) ※数値：平成25年度介護労働実態調査による。					
事業の期間	平成27年度から令和2年度					
事業の内容	職員の処遇や労働環境の改善につながる職員に優しい、やる気の出る介護現場づくりに関する介護事業者からの提案事業の実施を支援する。 【事業メニュー】 ・介護ロボット導入支援事業 ・外部コンサルティングによる雇用管理改善促進事業 ・ICTを活用した職場環境改善の研究支援事業 ・福祉用具開発支援事業 ・施設内保育施設運営支援事業 ・その他特に認められる提案事業					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	6,629 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	4,419 (千円)		民	4,419 (千円)
		県 (B)	2,210 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	6,629 (千円)			
			その他 (C)			0 (千円)
備考	(当初分) 平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 4,419千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円 (補正分) 平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円 平成28年度以降基金所用見込み額 (国費) : 0千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業						
事業名	【No. 68】 大学生による介護現場コンサルティング事業					【総事業費】 984 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	県						
事業の目標	介護職員の離職率を低減させる。 岡山県の現状 17.8% → 目標 16.6% (全国値並に低減) ※数値：平成25年度介護労働実態調査による。						
事業の期間	平成27年度から平成28年度						
事業の内容	大学生による介護現場での体験や聴き取りを通じ、介護職員の処遇や労働環境の改善につながる取組をまとめ、介護事業所等に提案する業務を、福祉系学部を有する大学に委託し実施する。 【趣旨】 県内の福祉系学部を有する大学に介護に、夢と希望が持てる職場づくりのための研究を委託し、介護現場に学生たちがインターンとして施設内での体験や入所者、職員からの聞き取りを行うなどにより介護方法をはじめ、労働環境や処遇について改善点や課題等を取りまとめるとともに、学生らによる研究発表などを行う研究会を開催する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		984 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	656 (千円)	民		656 (千円)	
		県 (B)	328 (千円)			うち受託事業等 (再掲)	
		計 (A+B)	984 (千円)			656 (千円)	
		その他 (C)	0 (千円)				
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 656千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業					
事業名	【No. 69】 元気な高齢者による介護現場応援事業				【総事業費】 0 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	老人クラブ等					
事業の目標	介護職員の離職率を低減させる。 岡山県の現状 17.8% → 目標 16.6% (全国値並に低減) ※数値：平成25年度介護労働実態調査による。					
事業の期間	平成27年度から平成28年度					
事業の内容	地域の元気な高齢者が、介護事業所における介護サービスや地域交流、地域貢献活動への協力・支援などを行うことにより、介護現場の処遇・労働環境改善等につながるモデル的な提案事業の実施を支援する。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	0 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	0 (千円)		民	0 (千円)
		県 (B)	0 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	0 (千円)			0 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考	平成27年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層（若者、女性、高齢者）に応じたマッチング機能強化事業						
事業名	【No. 70】 訪問看護ステーションへの看護職員入職促進事業					【総事業費】 37,000 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	訪問看護ステーション						
事業の目標	O J Tを受ける新人看護職員数 60人						
事業の期間	平成28年度から令和4年度						
事業の内容	訪問看護の経験のない看護職員を新たに雇用して規模拡大を図る訪問看護ステーションに対し、新任職員に対するO J Tのために必要な経費を助成する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		37,000 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)		24,667 (千円)		民	24,667 (千円)
		県 (B)		12,333 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)		37,000 (千円)			
		その他 (C)		0 (千円)			
備考	(補正分) 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 2,538千円 平成29年度基金所用見込み額 (国費) : 3,173千円 平成30年度基金所用見込み額 (国費) : 3,370千円 令和元年度基金所用見込み額 (国費) : 2,294千円 令和2年度基金所用見込み額 (国費) : 5,206千円 令和3年度基金所用見込み額 (国費) : 3,286千円 令和4年度基金所用見込み額 (国費) : 4,800千円						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業					
事業名	【No. 71】 看護小規模多機能型居宅介護に従事する看護職員育成事業				【総事業費】 0 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	看護師養成を行う大学等					
事業の目標	受講する看護師数 20人					
事業の期間	平成28年度から令和2年度					
事業の内容	看護師養成を行う大学等が、潜在看護職員や介護現場を希望する看護職員等に対し、在宅医療・訪問看護の知識・技術や看護小規模多機能型居宅介護の起業に関する研修を実施する場合に、必要な経費を助成する。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	0 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	0 (千円)		民	0 (千円)
		県 (B)	0 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	0 (千円)			0 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考	(補正分) 平成28～令和元年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円 令和2年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 資質の向上 (中項目) 研修代替要員の確保支援 (小項目) 各種研修に係る代替要員の確保対策事業					
事業名	【No. 72】 実務者研修等代替職員確保支援事業				【総事業費】 27,247 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	介護施設・事業所					
事業の目標	現任職員研修受講者数 20人					
事業の期間	平成28年度から令和4年度					
事業の内容	介護サービス事業所等が介護福祉士国家試験の受験資格要件である「実務者研修」をはじめとする各種研修を現任職員に受講させる際必要となる代替職員の確保に係る経費を支援する。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	27,247 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	18,165 (千円)		民	18,165 (千円)
		県 (B)	9,082 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
		計 (A+B)	27,247 (千円)			
		その他 (C)	0 (千円)			
備考	(補正分) 平成28年度基金所用見込み額 (国費) : 2,184千円 平成29年度基金所用見込み額 (国費) : 3,612千円 平成30年度基金所用見込み額 (国費) : 2,565千円 令和元年度基金所用見込み額 (国費) : 1,446千円 令和2年度基金所用見込み額 (国費) : 1,041千円 令和3年度基金所用見込み額 (国費) : 2,517千円 令和4年度基金所用見込み額 (国費) : 4,800千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野の拡大」 (小項目) 外国人留学生及び特定技能 1 号外国人の受入環境整備事業					
事業名	【No. 73】 外国人介護留学生受入事業者に対する奨学金支援事業				【総事業費】 6,861 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	県					
事業の目標	外国人介護職員を増やす。					
事業の期間	令和 3 年度から令和 4 年度					
事業の内容	介護福祉士養成施設等に入学した留学生に対し、将来、介護の専門職として雇用しようとする介護施設等が奨学金等を貸与・給付する場合、その経費の一部を助成し、負担軽減を図ることにより介護人材の確保につなげる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	6,881 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	4,587 (千円)		民	4,587 (千円)
		県 (B)	2,294 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	6,881 (千円)			0 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考	(補正分) 令和 3 年度基金所用見込み額 (国費) : 1,254 千円 令和 4 年度基金所用見込み額 (国費) : 3,333 千円					

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 長期定着支援 (小項目) 介護職員長期定着支援事業						
事業名	【No. 74】 若手介護職員交流推進事業					【総事業費】 196 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	指定都市						
事業の目標	介護職員の人材確保のため、新任介護職員の離職防止（定着支援） 交流会の参加者 100人						
事業の期間	令和3年度から令和4年度						
事業の内容	おおむね3年未満の介護関係職員の離職防止を図るため、仕事を行っていく上で同じ思い・悩みを共有できる交流会を行う。 ・基調講演（介護職員として期待される役割・意義について） ・グループワーク						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		196 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	131 (千円)
	基金	国 (A)		131 (千円)		民	0 (千円)
		県 (B)		65 (千円)			うち受託事業等 (再掲) 0 (千円)
		計 (A+B)		196 (千円)			
		その他 (C)		0 (千円)			
備考	(補正分) 令和3年度基金所用見込み額 (国費) : 0千円 令和4年度基金所用見込み額 (国費) : 196千円						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 人材育成力の強化 (小項目) 新人介護職員に対するエルダー、メンター制度等導入支援事業					
事業名	【No. 75】 エルダー・メンター制度導入支援事業				【総事業費】 642 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体					
事業の実施主体	公益財団法人介護労働安定センター岡山支部					
事業の目標	メンター制度導入に向けたセミナー実施回数 1 回 導入支援訪問事業所数 3 事業所					
事業の期間	令和 4 年度					
事業の内容	新人職員に対する定着支援と中堅職員のモチベーションアップのための「エルダー・メンター制度」を整備しようという意欲のある事業所に対し、ロールモデルの提供や効果を示し、制度構築につなげるための個別相談を行う。また、新人職員を指導する中堅職員を対象としたコミュニケーションスキル研修を実施する。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	642 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	428 (千円)		民	428 (千円)
		県 (B)	214 (千円)			うち受託事業等 (再掲)
		計 (A+B)	642 (千円)			428 (千円)
		その他 (C)	0 (千円)			
備考						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業 (大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 緊急時介護人材等支援 (小項目) 新型コロナウイルス感染症流行下における介護サービス事業所等のサービス提供体制確保事業						
事業名	【No. 76】 新型コロナウイルス感染症流行下における介護サービス事業所等のサービス提供体制確保事業					【総事業費】 156,034 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	県全体						
事業の実施主体	介護施設・事業所						
事業の目標	支援を実施する関係団体 3 団体 職場環境の復旧・改善を支援（サービス提供体制確保事業費補助金） 120 事業所						
事業の期間	令和3年度から令和5年度						
事業の内容	介護サービス事業所・施設等が、感染機会を減らしつつ、必要な介護サービスを継続して提供するために必要な経費について支援を行う。また、関係団体等と連携・調整し、緊急時に備えた応援体制を構築し、その支援を実施するために必要な経費を補助する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		156,034 (千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別	公	0 (千円)
	基金	国 (A)	104,022 (千円)	民		104,022 (千円)	
		県 (B)	52,012 (千円)			うち受託事業等 (再掲)	
		計 (A+B)	156,034 (千円)			11,790 (千円)	
		その他 (C)	0 (千円)				
備考	(補正分) 令和3年度基金所用見込み額 (国費) : 27,865千円 令和4年度基金所用見込み額 (国費) : 47,200千円 令和5年度基金所用見込み額 (国費) : 28,957千円						